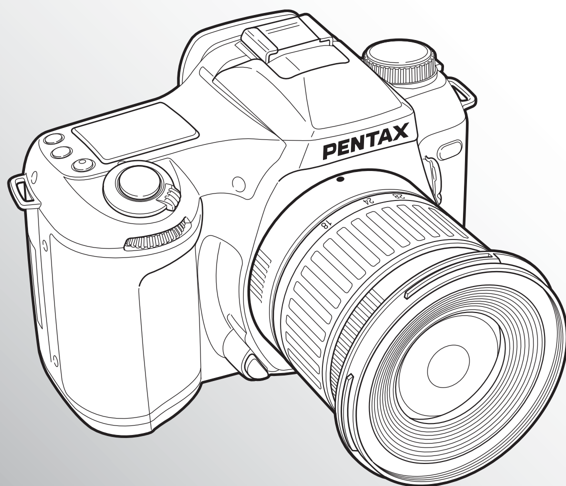
PENTAX®

デジタル一眼レフカメラ

*ist D

使用説明書



カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラ*istDをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を充分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

このカメラで使用できるレンズは、基本的にDAおよびFA Jレンズ、または絞りA（オート）のポジションのあるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、カスタムファンクションでレンズ絞りA以外でのレリーズ許可を設定してください。工場出荷時の設定では、カメラが作動しなくなります。
カスタムファンクションの設定については、本書の113ページをご覧ください。
絞りA（オート）以外での使用には機能制限がありますので、126ページの「絞りA以外でのレリーズ」設定時の注意 もご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 液晶モニタに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

商標について

- CompactFlash、コンパクトフラッシュおよびCFはSanDisk Corporationの商標です。
- MicrodriveはHitachi Global Storage Technologies Netherlands, B.V.の登録商標です。
- PENTAX PHOTO Browser、PENTAX PHOTO Laboratoryはペンタックス株式会社の商標です。
- PENTAXはペンタックス株式会社の登録商標です。
- その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび液晶モニタの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。



警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。



注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。



- カメラを分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一、電池を飲みこんだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ACアダプタは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプタをご使用になったり、専用のACアダプタを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、電池またはACアダプタを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ACアダプタ使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損・火災・感電の原因となります。



- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火のおそれがあります。
- 充電式のニッケル水素電池以外は充電しないでください。破裂・発火のおそれがあります。このカメラに使用できる電池の種類で、ニッケル水素電池以外は充電ができません。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こした時は、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに充分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- ストロボ発光部に手を密着させたり、衣服をかぶせたまま発光させないでください。火傷を負ったり、衣服が焦げるおそれがあります。

電池の取り扱いについての注意

- このカメラでは、決められた電池以外は使用しないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池を交換するときは、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池の「＋」と「－」の向きを間違えて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 単3リチウム電池、単3アルカリ電池、CR-V3は充電ができません。また分解はしないでください。無理に充電や分解をすると、破裂や液漏れの原因となります。

取り扱い上の注意

- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用や逸失利益等）については、保証しかねます。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- レンズ、ファインダー窓のホコリは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロワーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
- CCDの清掃につきましては、できるだけ当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）
- コンパクトフラッシュメモリカード（CFカード）およびマイクロドライブの取り扱いについては、149ページをご覧ください。
- 破損や故障の原因になりますので、液晶モニタの表面を強く押さないでください。

目次

基本操作編 35

撮影機能編 41

再生機能編 97

設定編 109

接続編 129

付録 133

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

カメラの特長や付属品、各部の名称について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影をはじめる前に、操作を行なってください。

3 基本操作編

一番簡単な撮影方法と再生方法を説明しています。すぐに撮影・再生をしたいときは、この操作方法をご利用ください。

4 撮影機能編

様々な撮影機能を使って、より高度な撮影を行う方法について説明しています。

5 再生機能編

再生の方法や消去のしかたを説明しています

6 設定編

カメラに関する機能の設定方法について説明します。

7 接続編

テレビやパソコンにカメラを接続する方法について説明しています。

8 付録

困ったときの対処のしかたや別売り品の案内、各種資料を記載しています。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

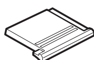
カメラの特長

- 23.5 × 15.7mm、有効画素数6.1メガピクセルのCCDを採用し、高精細、高ダイナミックレンジを実現。
- レンズ交換式デジタルカメラにおいて、小型、軽量、高剛性を達成。
- 秒約2.6コマの連続撮影（最大6コマ）を実現。
- 新開発11点測距AFセンサー（中央部9点はワイドクロスエリアAF）を搭載。
- 倍率0.95倍で従来の35mmカメラと違和感のないファインダーにより、マニュアルによるピント合わせが向上。また、測距点が赤く光るスーパーインポーズ機能を搭載。
- CR-V3リチウム電池、単3リチウム電池、単3ニッケル水素電池、単3アルカリ電池が使用可能。
- 2ダイヤルによるハイパーオペレーティングシステムを搭載。
- カメラと同じ電池を使用し、電池の寿命を延長するとともに縦位置レリーズボタンを備えたバッテリーグリップ（別売）が装着可能。

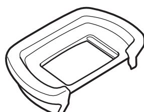
このカメラでは、さまざまなペンタックス35mm一眼レフカメラ用のレンズを使用することができます。ただし、このカメラに搭載されているCCDのサイズは23.5 × 15.7mmですが35mm判カメラの撮影画面サイズは36 × 24mmとなっているため、同じ焦点距離のレンズを使って同じ距離から撮影した場合には、画角（写し込まれる被写体の大きさや範囲）が35mm判カメラに対して異なります。35mm判カメラの撮影画面サイズはこのカメラの撮影画面サイズの約1.5倍ですので、このカメラに35mm判カメラ用のレンズを装着した場合、その焦点距離はレンズに表記された数値を約1.5倍にした値に相当します。

付属品について

このカメラには以下の付属品が同梱されています。
カメラをお使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。



ホットシューカバー FK
（カメラ装着）



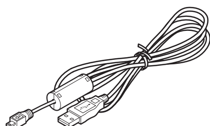
アイカップFL
（カメラ装着）



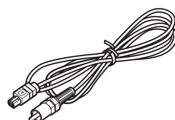
MEファインダーキャップ



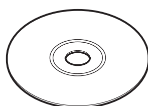
ボディーマウントカバー
（カメラ装着）



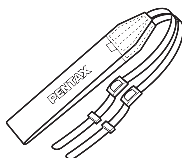
USBケーブル
I-USB2



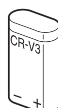
ビデオケーブル
I-VC2



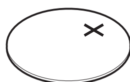
ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW10



ストラップ
O-ST10



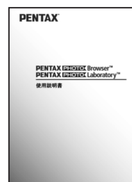
リチウム電池
CR-V3（2本）



リチウム電池CR2016
（カメラ装着）



使用説明書（本書）



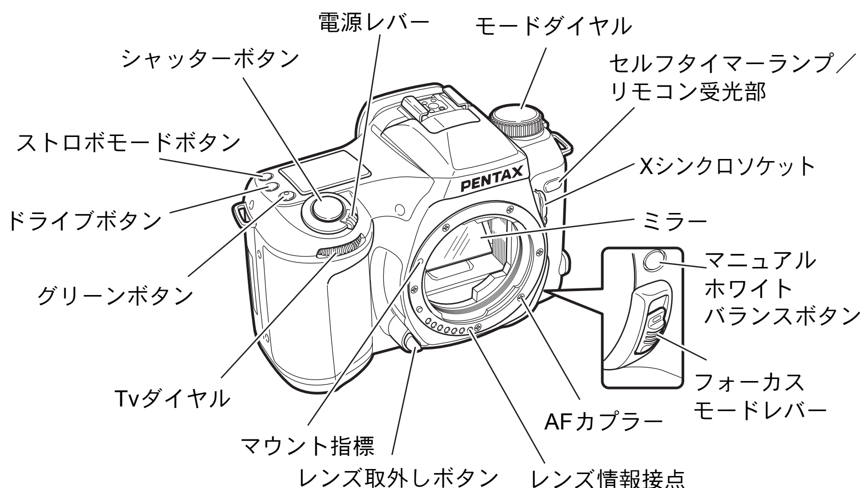
PENTAX PHOTO Browser・
PENTAX PHOTO Laboratory
使用説明書

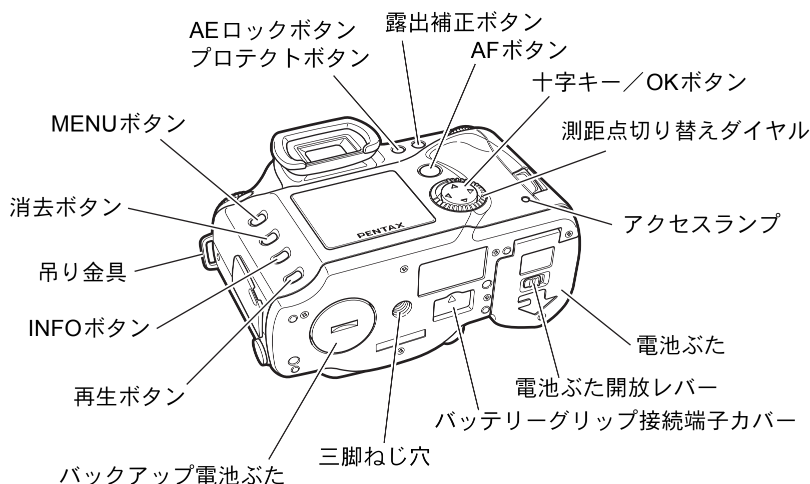


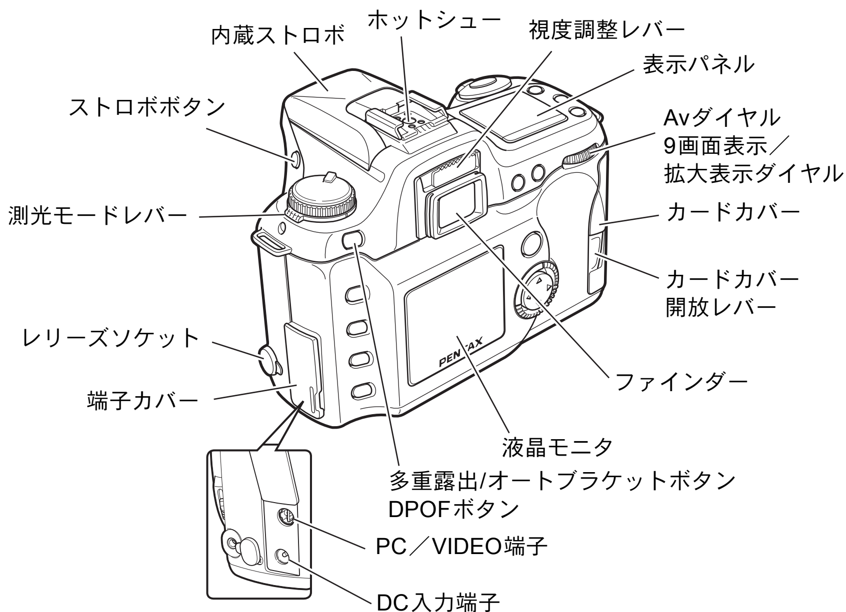
保証書

各部の名称

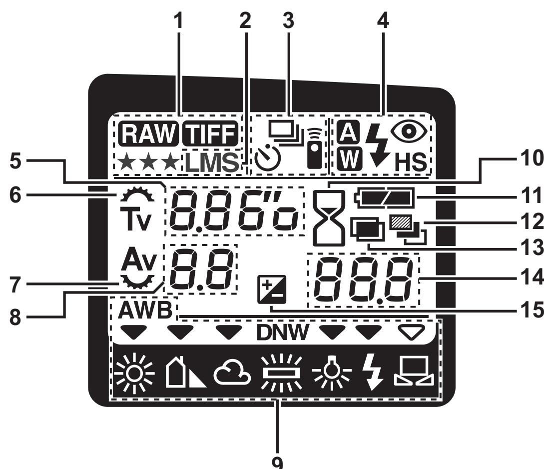
本体


電源レバー
モードダイヤル
シャッターボタン
セルフタイマーランプ／リモコン受光部
ストロボモードボタン
PENTAX
Xシンクロソケット
ドライブボタン
ミラー
グリーンボタン
マニュアルホワイトバランスボタン
フォーカスモードレバー
Tvダイヤル
AFカプラー
マウント指標
レンズ取外しボタン
レンズ情報接点


AEロックボタン
プロテクトボタン
露出補正ボタン
AFボタン
十字キー／OKボタン
MENUボタン
測距点切り替えダイヤル
消去ボタン
アクセスランプ
PENTAX
吊り金具
INFOボタン
電池ぶた
電池ぶた開放レバー
再生ボタン
バッテリーグリップ接続端子カバー
三脚ねじ穴
バックアップ電池ぶた


内蔵ストロボ
ホットシュー
視度調整レバー
表示パネル
ストロボボタン
Avダイヤル
9画面表示／
拡大表示ダイヤル
測光モードレバー
カードカバー
カードカバー
開放レバー
レリーズソケット
端子カバー
ファインダー
液晶モニタ
多重露出/オートブラケットボタン
DPOFボタン
PC／VIDEO端子
DC入力端子
PENTAX

表示パネルの表示ガイド



1 画質表示〔50ページ〕
2 記録サイズ表示〔49ページ〕
3 ドライブモード表示〔42ページ〕
4 ストロボモード表示〔84ページ〕
5 シャッター速度表示〔60ページ〕
感度表示〔52ページ〕
6 Tvダイヤル有効表示〔60ページ〕
7 Avダイヤル有効表示〔62ページ〕
8 絞り値表示〔62ページ〕
9 ホワイトバランスモード表示〔53, 140ページ〕
10 ビジー表示
11 電池消耗警告表示〔23ページ〕
12 オートブラケット表示〔80ページ〕
13 多重露出撮影表示〔82ページ〕
14 撮影可能枚数表示
露出補正値表示〔77ページ〕
多重露出枚数表示〔82ページ〕
15 露出補正表示〔77ページ〕

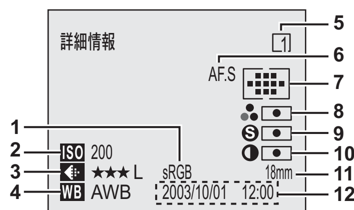


- 暗いところで表示パネルを使用するときは、電源レバーを ☼ の位置に合わせると、約10秒間表示パネルの照明をつけることができます。AF360FGZを使用するときは、AF360FGZの表示パネルの照明も同時に点灯します。
- 表示パネルの⌛表示中は、カメラが処理中なので操作を受け付けません。

液晶モニタの表示ガイド

撮影時

撮影時にINFOボタンを押すと、液晶モニタに撮影機能の設定内容が表示されます。

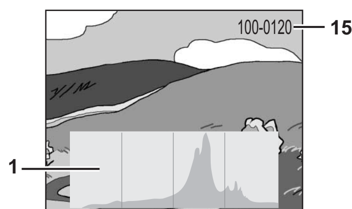


1 色空間〔126ページ〕
2 感度〔52ページ〕
3 画質・記録サイズ〔49, 50ページ〕
4 ホワイトバランス〔53, 140ページ〕
5 カスタムファンクション〔113ページ〕
6 フォーカスモード〔68ページ〕
7 測距点〔72ページ〕
8 彩度〔115ページ〕
9 シャープネス〔115ページ〕
10 コントラスト〔116ページ〕
11 レンズ焦点距離
12 現時刻

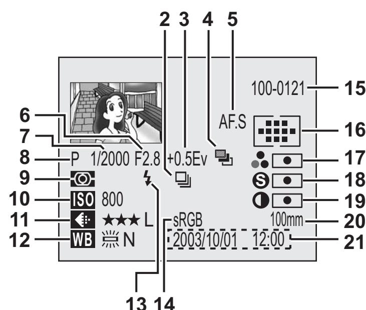
再生時

再生時にINFOボタンを押すごとに、ノーマルの再生画面→ヒストグラム表示→詳細情報表示と切替ります。

●ヒストグラム表示



●詳細情報表示

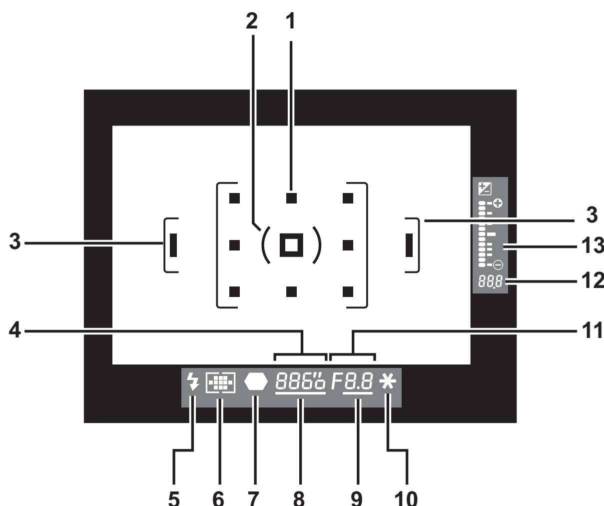


1 ヒストグラム
2 ドライブモード〔42ページ〕
3 露出補正値〔77ページ〕
4 オートブラケット/多重露出〔80, 82ページ〕
5 フォーカスモード〔68ページ〕
6 絞り値〔62ページ〕
7 シャッター速度〔60ページ〕
8 露出モード
 ▢ ：グリーンモード〔57ページ〕
 P ：ハイパープログラム〔58ページ〕
 Tv ：シャッター優先〔60ページ〕
 Av ：絞り優先〔62ページ〕
 M ：ハイパーマニュアル〔64ページ〕
9 測光モード〔55ページ〕
10 感度〔52ページ〕
11 画質・記録サイズ〔49, 50ページ〕
12 ホワイトバランス〔53, 140ページ〕
13 ストロボモード〔84ページ〕
14 色空間〔126ページ〕
15 フォルダ名・ファイル名〔122ページ〕
16 測距点〔72ページ〕
17 彩度〔115ページ〕
18 シャープネス〔115ページ〕
19 コントラスト〔116ページ〕
20 レンズ焦点距離
21 撮影日時



ヒストグラム表示中に十字キー（▲▼）を押すと、ヒストグラムの表示位置を上下に移動することができます。

ファインダーの表示ガイド



1	測距点	8	Tvダイヤル有効表示
2	スポット測光フレーム	9	Avダイヤル有効表示
3	AFフレーム	10	AEロック表示
4	シャッター速度表示	11	絞り値表示
5	ストロボ情報	12	撮影可能枚数表示 露出補正値表示
6	測距点表示	13	バーグラフ
7	ピント情報		

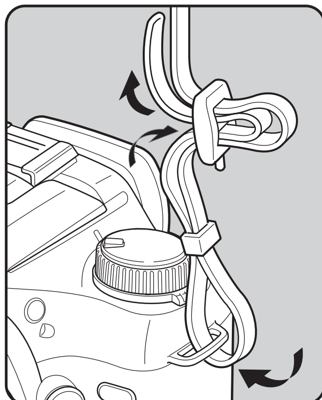


シャッターボタンを半押しにすると、測距点が赤くスーパーインポーズ表示されます。カスタムファンクションで、スーパーインポーズ表示しないように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

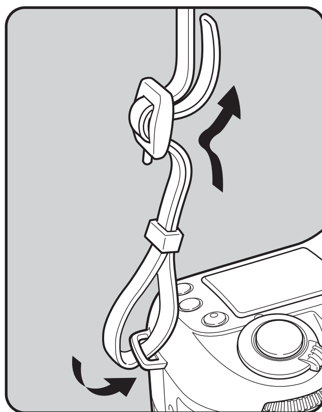
2 準備編

ストラップを取り付ける

1 **ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側になるように固定する**



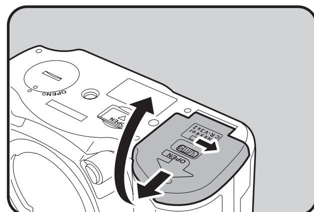
2 **もう一方のストラップの先端をカメラのもう一方の吊り金具に通し、留め具の内側になるように固定する**



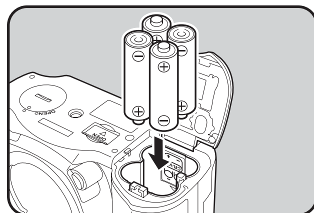
電池を入れる

カメラに電池をセットします。電池はCR-V3を2本、または単3リチウム電池、単3ニッケル水素電池、単3アルカリ電池のいずれか4本を使用します。

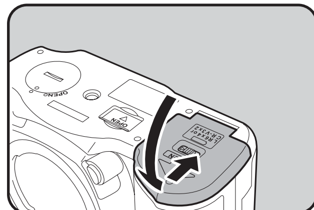
1　電池ぶた開放レバーを矢印の方向に押し、電池ぶたをレンズ側にスライドさせてから引き上げる



2　電池の向きを電池室内の「+」「−」表示に合わせて、挿入する



3　電池ぶたで電池を押さえながら電池ぶたを閉め、矢印の方向にスライドさせる





- 長時間ご使用になるときは、ACアダプタをご使用ください。〔25ページ〕
- 電池交換をしても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。
- 別売りのバッテリーグリップD-BG1もあります。

注意

- 単3リチウム電池、単3アルカリ電池、CR-V3は充電式ではありません。
- 電源がONのときは、電池ぶたを開けたり、電池を取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、電池を取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、電池が液もれをすることがあります。
- 長時間電池を取り外して、新しく電池を入れたときに日時がリセットされていたら、「日時を設定する」の手順に従って、設定しなおしてください。〔28ページ〕
- 電池は正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。
- 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。

電池について

このカメラでは、さまざまな電池を使用することができます。電池の特性は種類によって異なりますので、用途にあわせて電池をお選びください。

CR-V3

付属のCR-V3は寿命が長いので、旅行などに便利です。

単3ニッケル水素電池

充電して繰り返し使用することができるので経済的です。

単3リチウム電池

低温に強く、寒い地域での撮影に向いています。

単3アルカリ電池

お使いの電池が消耗してしまっても、容易に入手できる単3アルカリ電池をご使用になれます。ただし、使用条件によっては、カメラの性能を十分に発揮させられない場合がありますので、緊急用として以外は、使用をお勧めしません。

電池容量の確認

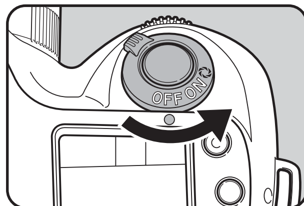
表示パネルに表示された[電池マーク]で、電池の残量を確認することができます。

	：	電池がまだ十分に残っています。
		
	：	残量が少なくなった状態です。
		
	：	残量がほとんどありません。
		
「電池容量がなくなりました」	：	メッセージの表示後、電源オフとなります。

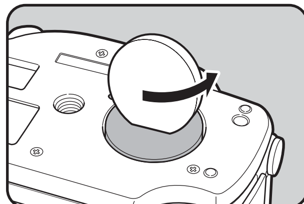
バックアップ電池について

バックアップ電池が消耗してくると、撮影用電池交換時に日時設定画面が液晶モニタに表示されるようになります。そのような場合は、バックアップ電池（CR2016）を交換してください（5年に1回を交換の目安としてください）。

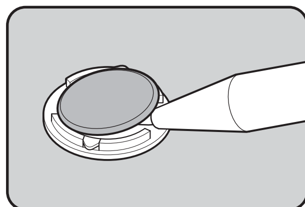
1 カメラの電源をOFFにする



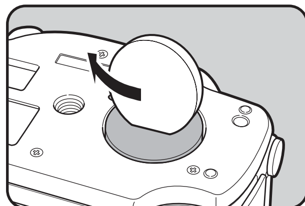
2 コインなどを使ってバックアップ電池ぶたを開ける



3 ボールペンの先などでバックアップ電池を取り出し、新しいバックアップ電池の「+」がふた側になるようしてセットする



4 バックアップ電池ぶたを「カチッ」と音がするまで閉める



撮影可能枚数と再生時間（電池交換時）

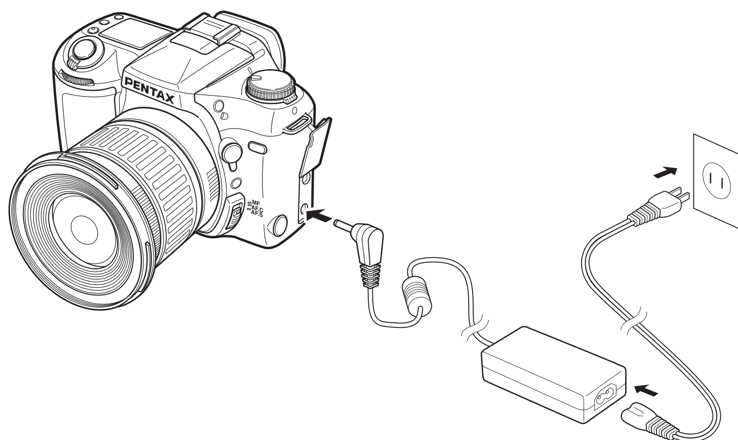
電池	(使用温度)	一般撮影	ストロボ撮影 使用率50％	ストロボ撮影 使用率100％	再生時間
CR-V3	(25°C)	約1000枚	約900枚	約800枚	約600分
	(0°C)	約650枚	約600枚	約500枚	約400分
単3リチウム	(25°C)	約900枚	約800枚	約700枚	約400分
	(0°C)	約800枚	約700枚	約600枚	約350分
ニッケル水素	(25°C)	約450枚	約400枚	約350枚	約300分
	(0°C)	約400枚	約350枚	約300枚	約250分
単3アルカリ	(25°C)	約110枚	約100枚	約80枚	約120分
	(0°C)	不適	不適	不適	約60分

- この数値は、当社の測定条件によるものです。露出モード、撮影状況により異なります。



- 使用環境温度が下がると、電池の性能が低下しますので、寒冷地で使用する場合は、予備の電池を用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、一旦低下した電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 単3アルカリ電池は特性上、カメラの性能を十分に発揮させられない場合がありますので、緊急用として以外は、使用をお勧めしません。
- 海外旅行、寒冷地での撮影や画像をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。
- 「バッテリーグリップ D-BG1」を使用した場合の撮影可能枚数については、144ページをご覧ください。

ACアダプタを使用する



液晶モニタを長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプタキットK-AC10J（別売）のご使用をおすすめします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、端子カバーを開ける

2 ACアダプタのDC端子を、カメラのDC入力端子に接続する

3 ACコードをACアダプタに接続する

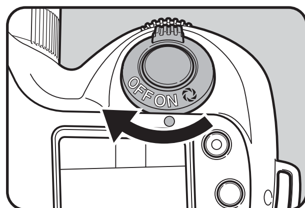
4 コンセントに電源プラグを差し込む

注意

- AC アダプタを接続または外すときは、必ずカメラの電源が切れた状態で行なってください。
- カメラやACアダプタ、ACコード端子、コンセントはしっかり差し込んでください。カメラがCFカードにデータを記録、または読み出している間に接続部が外れると、データが破壊されます。
- AC アダプタをご使用になるときはAC アダプタキット K-AC10J の使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプタを接続しても、カメラ内の充電池を充電することはできません。

電源を入れる

1 電源レバーを「ON」の位置に合わせる



電源が入ります。

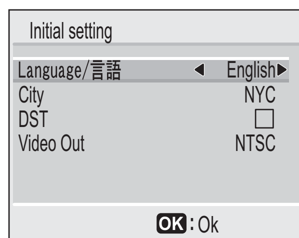
電源レバーを「OFF」の位置に合わせると電源が切れます。



- カメラを使用しないときは、必ず電源をOFFにしてください。
- 電源レバーを に合わせると、表示パネルの照明が測光タイマーと同じ時間（初期値は10秒）点灯します。同時に被写界深度を確認することができます。被写界深度確認機能については136ページをご覧ください。
- 一定時間操作をしないで放置すると、オートパワーオフが働きます。（初期値は1分）。

初期設定をする

工場出荷後カメラの電源を初めて入れると、液晶モニタに「Initial Setting」（初期設定）の画面が表示されます。下記の手順にしたがって、液晶モニタに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定をする必要はありません。

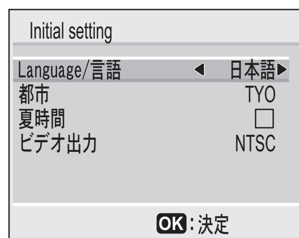


言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1 **十字キー（◀▶）を押して、「日本語」を選ぶ**

「日本語」を選んだときにTYO（都市）、□（夏時間）、NTSC（ビデオ出力）が右図のように表示されていたら、手順5に進んでください。



2 **十字キー（▼）を押す**

カーソルが「都市」に移動します。

3 **十字キー（◀▶）を押して、TYO（東京）を表示させる**

4 **手順2、3を繰り返して、夏時間を□（オフ）、ビデオ出力をNTSCに設定する**

5 **OKボタンを押す**

日時を設定する画面が表示されます。

日時を設定する

日時の表示スタイルと現在の日付／時刻を設定します。

1 **十字キー（▲▼）を押して、日付の表示スタイルを設定する**

2 **十字キー（▶）を押す**

「24h」の上下に▲▼が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）を押して、24h（24 時間表示）または 12h（12時間表示）を設定する**

4 **十字キー（▶）を押す**

「西暦年」の上下に▲▼が表示されます。

5 十字キー（▲▼）を押して、西暦年を設定する

日時設定
表示スタイル ： 年/月/日 24h
2003/ 01 / 01
00:00
OK 決定

6 十字キー（▶）を押す

「月」の上下に▲▼が表示されます。

日時設定
表示スタイル ： 年/月/日 24h
2003/ 01 / 01
00:00
OK 決定

7 十字キー（▲▼）で月を設定し、十字キー（▶）を押す

「日」の上下に▲▼が表示されます。

日時設定
表示スタイル ： 年/月/日 24h
2003/ 01 / 01
00:00
OK 決定

8 手順7を繰り返して、「時」「分」を設定する

9 設定が終了したら、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。



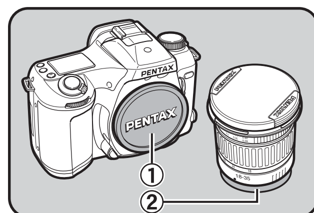
OKボタンを押すと、時計は0秒にセットされます。



- 初期設定の途中でMENUボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。
- ここで設定した内容は、設定後メニュー操作で変更することができます。メニューの呼び出し方は「日付の表示スタイル・日付/時刻を変更する」〔118ページ〕をご覧ください。

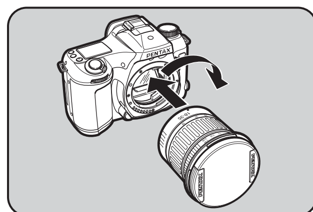
レンズを取り付ける

1 図の①と②のカバーを取り外す



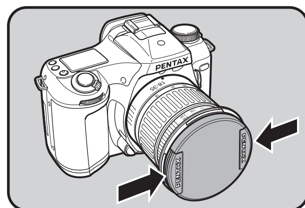
2 カメラとレンズの赤点を合わせ、「カチッ」と音するまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

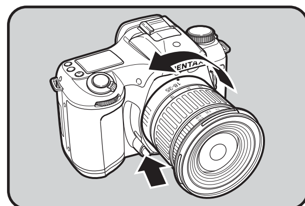
レンズ取り付け後、レンズを左に回して、確実にロックされていることを確認してください。



3 図のように矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す。

レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを左へ回してください。







- ①のカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。別売りアクセサリーとしてロック機構付きの「ボディーマウントキャップK」もあります。
- レンズの着脱は、不用意なレンズの動きを防ぐため、電源 OFF で行なってください。
- 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を上にして置いてください。
- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点や AF カプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

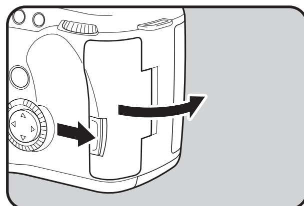
CFカードを入れる／取り出す

撮影した画像は、コンパクトフラッシュ（CF）カードに記録されます。CFカード（市販品）を入れるときや取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

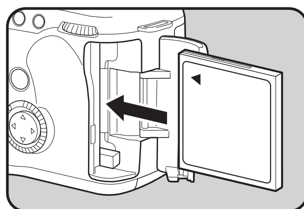


CFカードの他に、マイクロドライブもご使用いただけます。

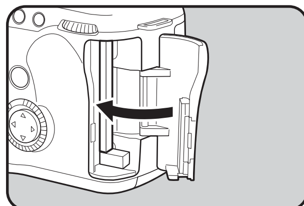
1 カードカバー開放レバーを矢印の方向に押し、カードカバーを開ける



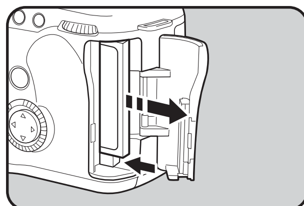
2 CF カードのラベル面（▲ マークの印刷面）を液晶モニタ側に向け、奥まで押し込む



3 カードカバーを閉じる



CFカードを取り出すときは、カード取り出しボタンを押します。





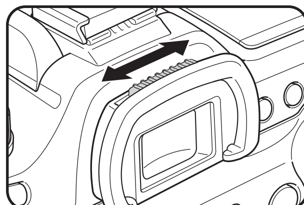
アクセスランプ点灯中、表示パネルの8表示中は、絶対にCFカードを取り出さないでください。

ファインダーの視度を調整する

ファインダーを視力に合わせて調整します。

1 カメラを明るい方へ向けて、ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内の測距点AFフレームがはっきり見える位置に調整します。





視度は-2.5~+1.5m^{-1}の範囲で調整できます。

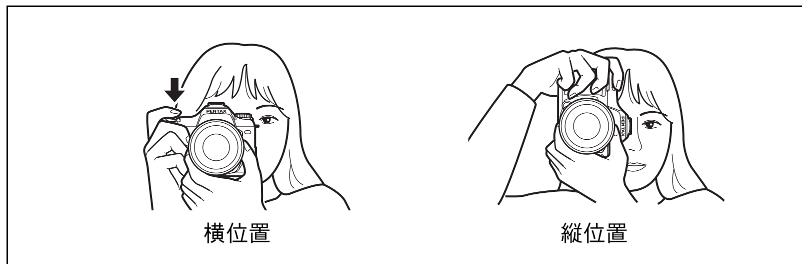
3 基本操作編

撮影の基本操作

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。



横位置　　縦位置

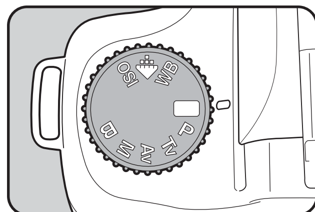


- 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると効果があります。
- 個人差はありますが、一般的には1／（焦点距離×1.5）が手持ちの限界シャッター速度とされています。たとえば、焦点距離が50mmでは1／75秒、100mmでは1／150秒などです。これ以下のシャッター速度になる場合には、なるべく三脚を使用してください。
- 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

撮影する

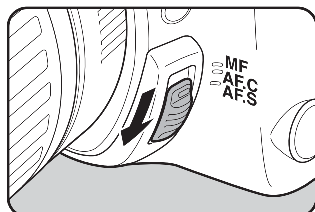
1 カメラをグリーンモードにする

モードダイヤルを回して、□の位置に合わせます。
〔57ページ〕



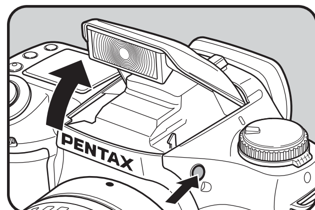
2 フォーカスモードをオートフォーカスにする

図のレバーを **AF.S** に合わせます。
〔68ページ〕



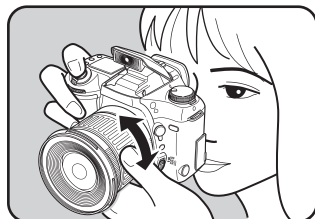
3 ストロボボタンを押して、ストロボを上げる

ストロボを使用しないときは、ストロボを上げる必要はありません。

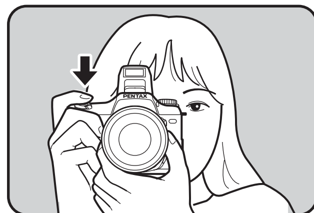


4 被写体の大きさを決める

ズームリングを回して、被写体の大きさを決めてください。
〔79ページ〕



5 ピントを合わせて撮影する

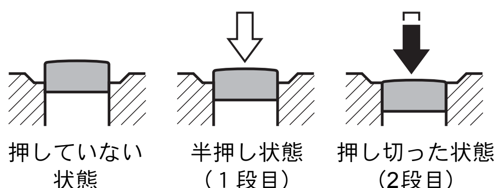


被写体をAFフレームの内側に入れて撮影します〔17ページ〕。ストロボは明るさに応じて自動的に発光します。

撮影が終了したら、ストロボは手で押し下げてください。

シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。



シャッターボタンを半押しすると（1段目まで押し込む）、ファインダー内や表示パネルの表示が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む（2段目まで押し込む）と撮影することができます。



- 手ぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押し込むと半押しになるのか、感覚をつかんでおいてください。
- ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押し後、指を離しても約 10秒間（初期値）表示されたままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、表示は継続します。

クイックビュー

撮影直後に画像が表示される「クイックビュー」は、初期設定では1秒間表示されます。クイックビュー表示中に消去ボタンを押すと、消去画面が表示されます。十字キー（▲）「消去」を選び、OKボタンを押すとその画像を消去することができます。

再生の基本操作

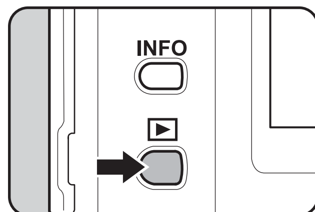
画像を再生する

撮影した画像を再生します。

1 撮影後に再生ボタンを押す

最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

もう一度再生ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影できる状態に戻ります。









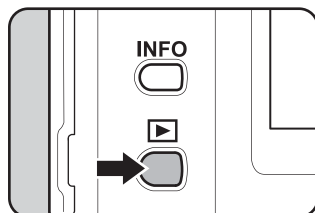
- 画像表示中に十字キー（▼）を押すと、画像が90°、180°、270°と回転して表示されます。縦位置で撮影した画像を見やすく表示することができます（回転されるのは表示のみで、記録画像は更新されません）。
- 再生画面に切り替えると「ファイルNo.」の数字の最も大きい画像が最初に表示されます。
- 液晶モニタに表示された画像は、9画面表示／拡大表示ダイヤルで拡大して見ることもできます。〔98ページ〕
- 画像が保存されていないときは、「画像がありません」と表示されます。

前後の見たい画像を選択する

撮影した画像を前後に一枚ずつ送って再生します。

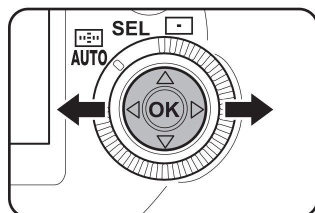
1 撮影後に再生ボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに表示されます。



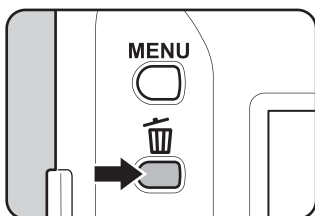
2 十字キー（◀ ▶）を押す

◀ 前の画像が表示されます。
▶ 次の画像が表示されます。



画像を消去する

画像表示中に消去ボタンを押すと、消去画面が表示されます。十字キー（▲）「消去」を選び、OKボタンを押すとこの画像を消去することができます。
もう一度再生ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影できる状態に戻ります。






4 撮影機能編

ドライブモードを選択する

このカメラには、4種類のドライブモードがあります。ドライブモードの変更は、モードダイヤルを露出モードのいずれかに合わせてから行います。〔57ページ〕

□	1コマ撮影	シャッターボタンを押し込むと、1回だけシャッターがきれます。最も一般的なドライブモードです。〔42ページ〕
⧉	連続撮影	シャッターボタンを押し込んでいる間、連続的にシャッターがきれます。〔43ページ〕
⏲	セルフタイマー	セルフタイマー撮影です。〔44ページ〕
▯	リモコン撮影	カメラから離れた所から撮影することができます。〔47ページ〕

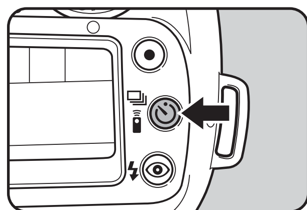


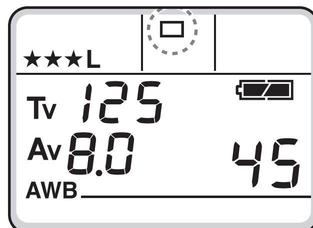
⏲（セルフタイマー）と▯（リモコン撮影）の場合、カメラの電源をOFFにするとドライブモードの選択は解除され、次回電源をONにしたとき□（1コマ撮影）となります。

1コマ撮影

シャッターボタンを押し込むと、1回だけシャッターがきれます。最も一般的なドライブモードです。

1 ドライブボタンを押して表示パネルに□を表示させる

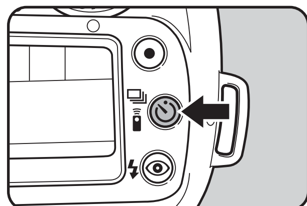


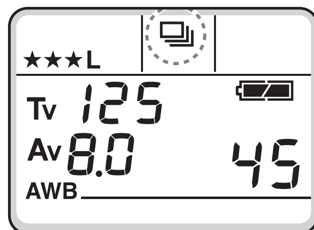


連続撮影

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続的にシャッターがきれます。

1　ドライブボタンを押して表示パネルに□を表示させる





2　シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせる

3　シャッターボタンを押し込む

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。シャッターボタンを指から離すと、連続撮影を終了します。



- フォーカスモードレバーが **AF.S**（シングル）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- フォーカスモードレバーが **AF.C**（コンティニアス）に設定されているときは、シャッターが1回きれるごとに、その都度ピント合わせが行われます。ただし、この場合、ピントが合っていなくてもシャッターがきれるのでご注意ください。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。ただし、カスタムファンクションで、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

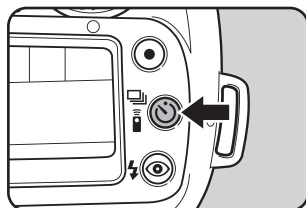
セルフタイマー撮影

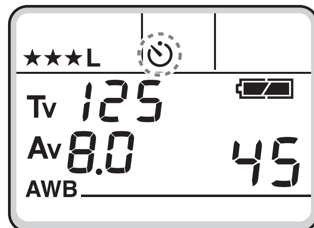
セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。シャッターボタンを押し込むと、約12秒後にシャッターがきれます。

1 カメラを三脚などで固定する



2 ドライブボタンを押して ⏲ を表示パネルに表示させる

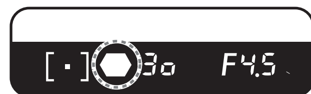




3 写したいものが画面に入っているかファインダーで確認し、シャッターを半押しする

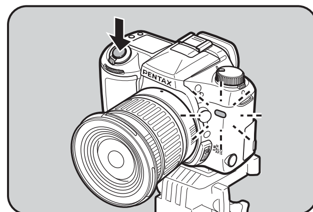
ピントが合うと、合焦マーク●が点灯します。





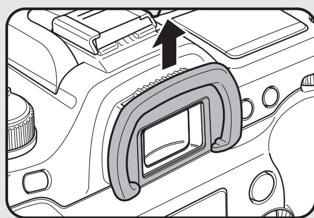
4 シャッターボタンを押し込む

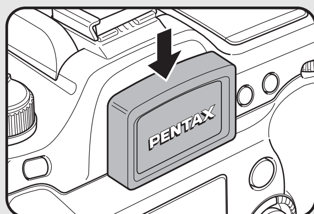
セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを押しきった後、約12秒後にシャッターがきれます。





- セルフタイマーの電子音を消すこともできます。詳しくは、117ページをご覧ください。
- 露出モードを **M**（ハイパーマニュアル露出）モード以外に設定してセルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能〔67 ページ〕や付属のファインダーキャップをご利用ください。
- ファインダーキャップなどのアクセサリーの取り付けは、アイカップFLを上に引き上げ、取り外してから行ないます。

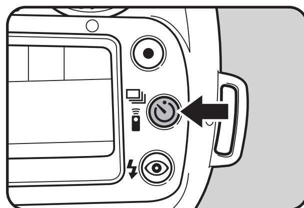

アイカップを取り外す



ファインダーキャップを取り付ける

5 撮影終了後にドライブボタンを押す

セルフタイマー撮影が解除され、1コマ撮影に戻ります。





セルフタイマーが作動中でも、ドライブボタンを押すことで解除することができます。

ミラーアップ機能

シャッターボタンを押しきった後、ミラーをアップした状態で約2秒後にシャッターがきれるように設定することができます。ミラーアップ機能を利用することで、ミラーの作動によるぶれを軽減することができます。
ミラーアップで撮影するときは、以下の手順で操作してください。

1 カスタムファンクションの「セルフ作動時間」を「2sec（2秒）」に設定する。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。
2 撮影するときは、ドライブボタンを押して を表示させる。
3 撮影するものにピントを合わせ、シャッターボタンを押しきる。
ミラーをアップした状態で2秒後にシャッターがきれます。ミラーアップ直前の露出値でAEロックされます。

リモコン撮影（リモコンF：別売品）

カメラから離れた所から撮影することができます。リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後に撮影されます。

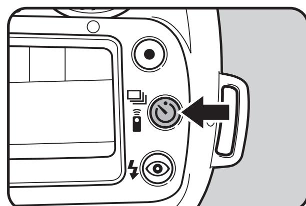
1 カメラを三脚などで固定する

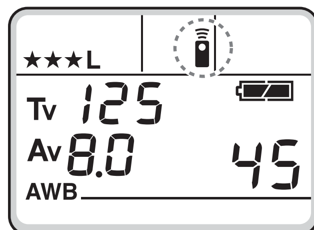


2 ドライブボタンを押して を表示パネルに表示させる



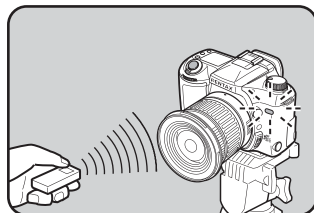
- リモコンの操作でピント合わせは行なわれません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてからリモコン操作をしてください。
- を表示させると、セルフタイマーランプが点滅し、リモコン待機状態であることをお知らせします。



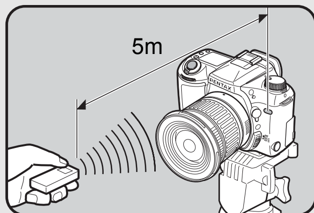


3 リモコンをカメラの正面に向けて、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコンのシャッターボタンを押してから、3秒後に撮影されます。
撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。撮影終了後、ドライブボタンを押すと、リモコン撮影が解除され、1コマ撮影に戻ります。







- リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約5mです。
- 露出モードを**B**（バルブ）モードに設定してリモコン撮影を行なうと、リモコンのシャッターボタンを押している間、バルブ撮影をすることができます。
- 露出モードを **M**（ハイパーマニュアル露出）モード以外に設定してリモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能〔67ページ〕や付属のファインダーキャップをご利用ください。ファインダーキャップの取り付けかたについては45ページをご覧ください。
- カスタムファンクションでリモコンの作動時間を3秒から即撮影に変更することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。
- リモコン撮影を始動後に中止したいときは、ドライブボタンを押すか、電源をOFFにしてください。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。
- 内蔵ストロボを使用する場合は、あらかじめストロボを上げておいてください。
- リモコン撮影モードのまま約5分間放置すると、自動的に1コマ撮影に戻ります。
- リモコン用電池では、約 30,000 回リモコン送信することができます。電池の交換については当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお問い合わせください。（交換は有料になります）

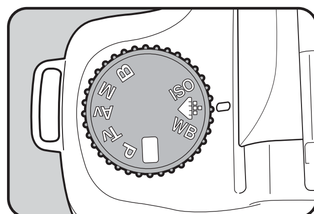
記録サイズと画質を設定する

記録サイズを設定する

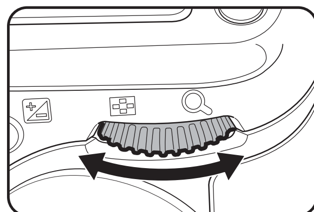
画像の記録画素数をL（3008 × 2008）、M（2400 × 1600）、S（1536 × 1024）から選ぶことができます。画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。また、画像の容量は設定している画質によっても異なります。

L	3008 × 2008	A3サイズでの印刷などに適しています。
M	2400 × 1600	A4サイズでの印刷などに適しています。
S	1536 × 1024	A5サイズでの印刷などに適しています。

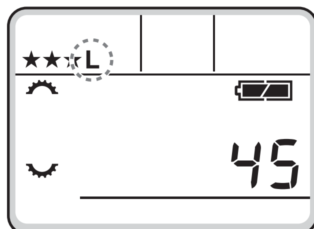
1　モードダイヤルを回して の位置に合わせる



2　Av ダイヤルで記録サイズを設定する



3　表示パネルで記録サイズを確認する



4 **モードダイヤルを回して、 WB ISO以外の位置に合わせる**



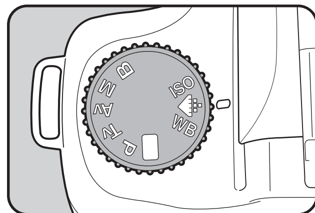
- 記録サイズ設定中にグリーンボタンを押すと、記録サイズは初期値（L）に戻ります。
- カスタムファンクションで、Sを選択したときの記録サイズを1536 × 1024、1152 × 768、960 × 640のいずれかに設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。
- 画質設定がRAWの場合、記録サイズは選択できません。（3008 × 2008固定）

画質を設定する

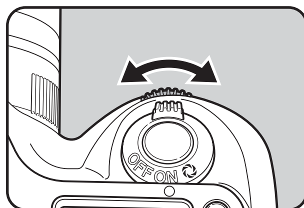
画像の画質を設定します。画像の容量は、設定している記録サイズによっても異なります。

RAW	RAW	ペンタックス独自の保存形式です。専用のユーティリティソフトを使用してパソコンで加工、再生することが可能です。
TIFF	TIFF	非圧縮データとして画像を記録します。パソコンでの加工に適しています。画像は「TIFF」形式で記録されます。
★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、A4サイズなど大きな画像のプリントなどに適しています。画像は「JPEG」形式で記録されます。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、画像のプリントおよびパソコンの画面で画像を見るときに適しています。画像は「JPEG」形式で記録されます。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。画像は「JPEG」形式で記録されます。

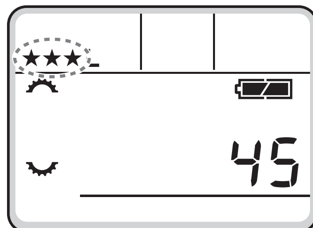
1 **モードダイヤルを回して の位置に合わせる**



2 Tvダイヤルで画質を設定する



3 表示パネルで画質を確認する



4 モードダイヤルを回して WB ISO 以外の位置に合わせる

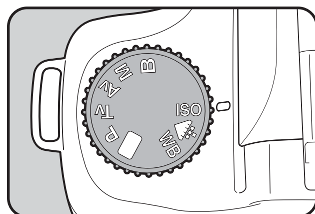


画質設定中にグリーンボタンを押すと、画質は初期値（★★★（S.ファイン））に戻ります。

感度を設定する

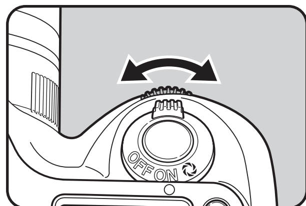
撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。
感度は、ISO感度200～1600相当の間で設定することができます。

1 モードダイヤルを回してISOの位置に合わせる

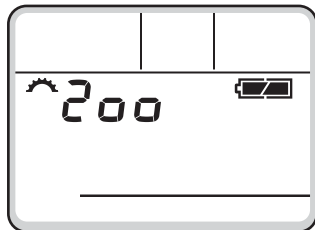


2 Tvダイヤルで感度を設定する

数値を大きくするほど暗い所での撮影に強くなりますが、反面、ノイズの影響を受けザラついた画像になる傾向があります。



3 表示パネルで感度を確認する



4 モードダイヤルを回して WB ISO 以外の位置に合わせる



- 数字を小さい方へ変化させたいときは、Tv ダイヤルを左に、大きい方へ変化させたいときは、右に回してください。
- 感度設定中にグリーンボタンを押すと、感度は初期値（感度200）に戻ります。
- カスタムファンクションの「感度範囲」で「Wide」を設定した場合は、感度3200まで設定することができます。〔113ページ〕

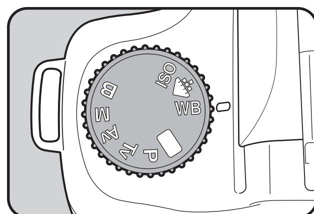
ホワイトバランスを設定する

被写体の色は光源によって変わります。例えば、日中の光があたっているときと電球の光があたっているときとでは、同じ白い被写体であっても白の色が違います。フィルムを使用するカメラでは、フィルムを使い分けたりフィルタを使用して調節しますが、デジタルカメラではホワイトバランスで白の色を調節します。

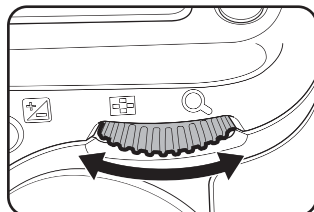
AWB	オート	調整をカメラにまかせます。（約4000～8000K）
	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。（約5200K）
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。（約8000K）
	曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。（約6000K）
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類によって、W（白色（約4200K）* の蛍光灯）、N（昼白色（約5000K）* の蛍光灯）、D（昼光色（約6500K）* の蛍光灯）から選択することができます。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。（約2850K）
	フラッシュ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。（約6000K）
	マニュアル	マニュアルで調整して撮影するときに設定します。

* 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。色温度の詳細は141ページをご覧ください。

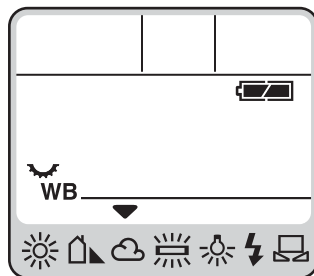
1 モードダイヤルを回して WB の位置に合わせる



2 Av ダイヤルでホワイトバランスを設定する



3 表示パネルでホワイトバランスを確認する



4 モードダイヤルを回して、 WB ISO 以外の位置に合わせる



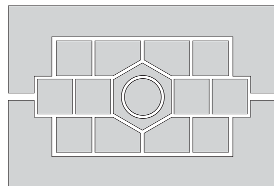
- マニュアルで調整する方法については、140ページをご覧ください。
- ホワイトバランス設定中にグリーンボタンを押すと、ホワイトバランスは初期値（**AWB**）に戻ります。

測光方式を選択する

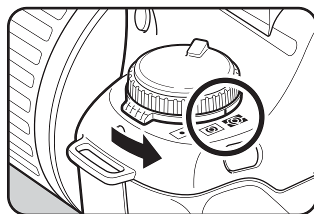
ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。測光方式には、16分割測光、中央重点測光、スポット測光方式が用意されています。

分割測光を利用する

分割測光では、図のように画面内を16に分割して明るさが測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、補正します。



1 測光モードレバーを回して、白い指標を 🔘 の位置に合わせる

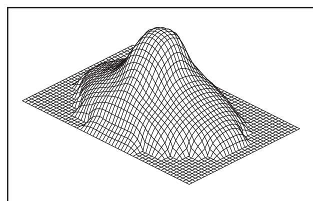




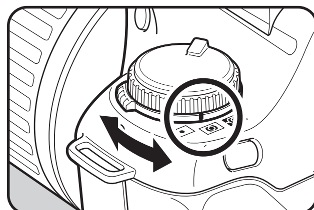
DA・FA J・FA・F・A以外のレンズでは、分割測光に設定しても中央重点測光になります。（カスタムファンクションで、絞りA位置以外でのレリーズ許可を設定した場合のみ使用可）

中央重点測光を利用する

ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときにカメラ任せではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。中央重点測光では、図のように高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正は行なわれません。

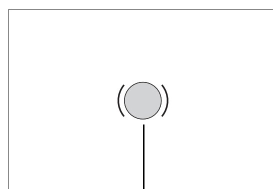


1　測光モードレバーを回して、白い指標を の位置に合わせる



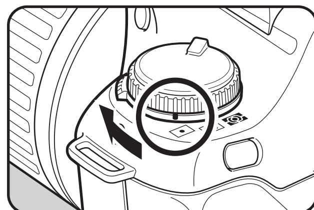
スポット測光を利用する

スポット測光では、図のようにファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。写したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能と組み合わせて利用すると便利です。〔67ページ〕



スポット測光範囲

1　測光モードレバーを回して、白い指標を の位置に合わせる



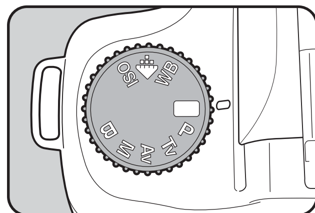
露出モードについて

このカメラには、グリーンモード、**P**（ハイパープログラム）モード、**Tv**（シャッター優先）モード、**Av**（絞り優先）モード、**M**（マニュアル）モード、**B**（バルブ）モードの6つの露出モードが用意されています。

グリーンモードを利用する

プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影することができます。

1 モードダイヤルを回して ▭ の位置に合わせる



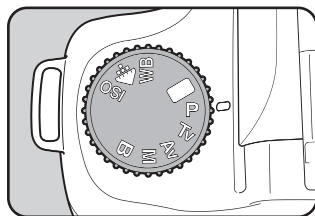
注意

グリーンモードでは、AEロック撮影〔67ページ〕、オートブラケッティング撮影〔80ページ〕、多重露出撮影〔82ページ〕、露出補正〔77ページ〕はできません。

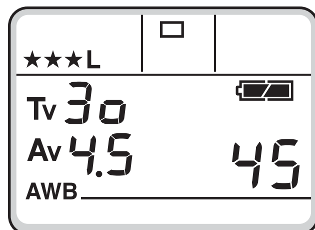
P（ハイパープログラム）モードを利用する

プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影することができます。TvダイヤルとAvダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞りの組み合わせを変更することもできます（ハイパープログラム）。

1　モードダイヤルを回して P の位置に合わせる

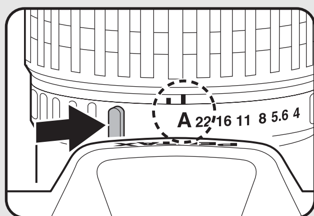


2　ファインダーと表示パネルでシャッター速度と絞り値を確認する









- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。
- カスタムファンクションで、使用するプログラムラインを変更することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。
- カスタムファンクションで、設定した条件では適正露出を得られない場合に適正露出を得られるよう感度の自動補正を行うかどうかを設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

ハイパープログラム

●シャッター速度を変えたい場合

P（ハイパープログラム）モードで**Tv**ダイヤルを回すと、シャッター優先自動露出に切り替わります。

- シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。
- 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅します。
- グリーンボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

●絞りを変えたい場合

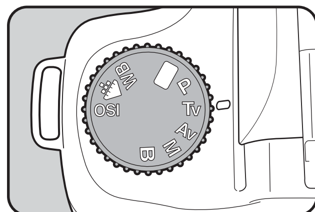
P（ハイパープログラム）モードで**Av**ダイヤルを回すと、絞り優先自動露出に切り替わります。

- 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。
- 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。
- グリーンボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

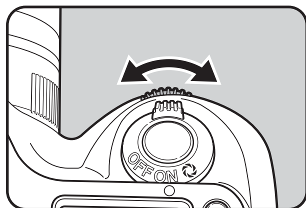
Tv（シャッター優先）モードを利用する

シャッター速度を設定すると、明るさに応じて絞りが自動的に変わります。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。シャッター速度の効果については、134ページをご覧ください。

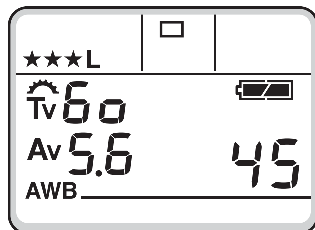
1 モードダイヤルを回して Tv の位置に合わせる



2 Tv ダイヤルでシャッター速度を設定する



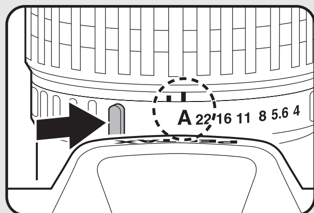
3 ファインダーと表示パネルでシャッター速度と絞り値を確認する







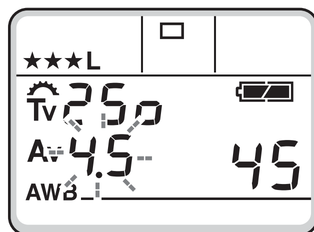
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。
- 表示パネルのシャッター速度は、電源がONであれば常に表示されます。
- カスタムファンクションで、撮影したときにノイズリダクション処理するかどうかを設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。



- カスタムファンクションで、設定した条件では適正露出を得られない場合に適正露出を得られるよう感度の自動補正を行うかどうかを設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。。

露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば適正露出で撮影することができます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、シャッター速度を変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、設定感度を下げるか、NDフィルターをお使いください。暗すぎるときは、設定感度を上げるか、ストロボなどをご利用ください。

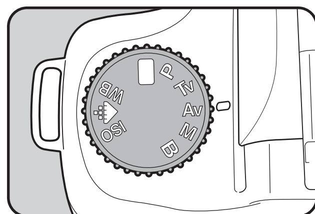




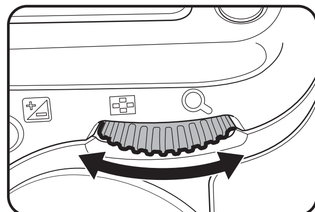
Av（絞り優先）モードを利用する

絞り値を設定すると、明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。ピントの合う範囲を広くしたい風景画像や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。絞りの効果については、134ページをご覧ください

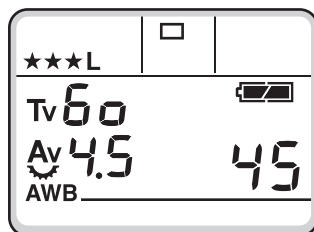
1 モードダイヤルを回して Av の位置に合わせる



2 Avダイヤルで絞り値を設定する



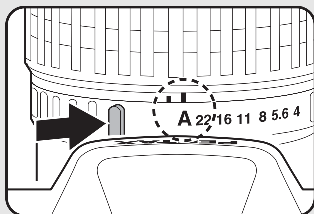
3 ファインダーと表示パネルでシャッター速度と絞り値を確認する





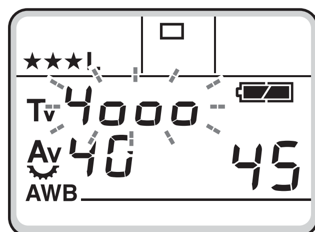


- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。
- 表示パネルの絞りは、電源がONであれば常に表示されます。
- カスタムファンクションで、設定した条件では適正露出を得られない場合に適正露出を得られるよう感度の自動補正を行うかどうかを設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。



露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞りを小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞りを開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば撮影することができます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、設定感度を下げるか、NDフィルターをお使いください。暗すぎるときは、設定感度を上げるか、ストロボなどをご利用ください。

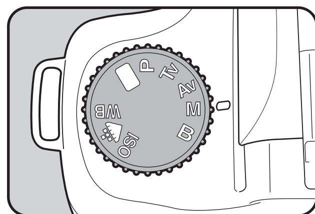




M（ハイパーマニュアル露出）モードを利用する

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影する場合や、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にするときに使います。

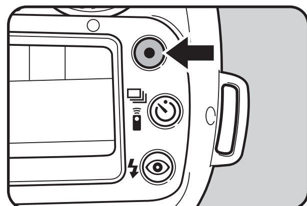
1 モードダイヤルを回して M の位置に合わせる

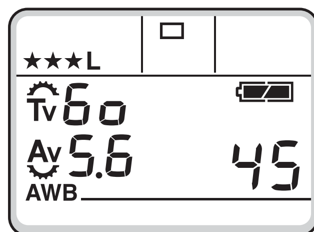


2 グリーンボタンを押す

シャッター速度と絞りが自動的に切り替わり、適正露出が得られます。

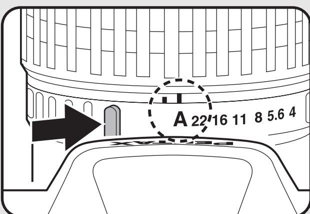
この状態から、TvダイヤルやAvダイヤルで好みの露出値に変更して、撮影することもできます。







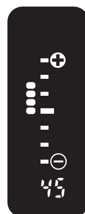
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。



- グリーンボタンを押して適正露出を求める際、カスタムファンクションの「**M**時のグリーンボタン機能」の設定によって、シャッター速度と絞りの求め方が変わります。
  - P ： カスタム設定で選択されたプログラムモードに準じて、適正露出を求めます。
  - Tv ： グリーンボタンが押されたときの絞り値を固定して、適正露出の得られるシャッター速度を求めます。
  - Av ： グリーンボタンが押されたときのシャッター速度を固定して、適正露出の得られる絞り値を求めます。

ファインダーのバーグラフの見かた

M（ハイパーマニュアル露出）モードでは、ファインダーにバーグラフが表示されます。バーグラフの●が中心にあれば適正、－側に並んでいるときは露出不足、＋側に並んでいるときは露出オーバーです。バーグラフの表示限界を超えた場合は、⊕または⊖が点滅します。

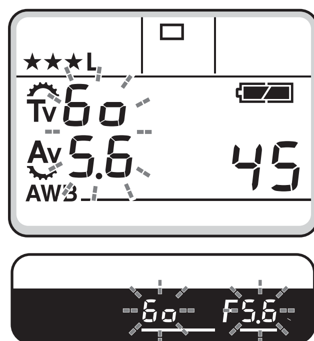




表示パネルのシャッター速度と絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。

露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示と絞り値表示が点滅し、測光範囲外をお知らせします。シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、設定感度を下げるか、NDフィルターをお使いください。暗すぎるときは、設定感度を上げるか、ストロボなどをご利用ください。



AE-Lとの組み合わせ

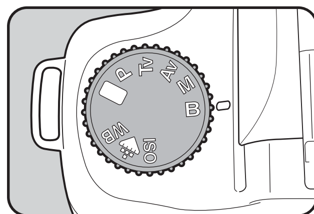
ハイパーマニュアルでは、AE-Lボタン〔67ページ〕を押して、露出値を記憶させることができます。その状態でシャッター速度あるいは絞りを変更すると、露出値を保持したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。

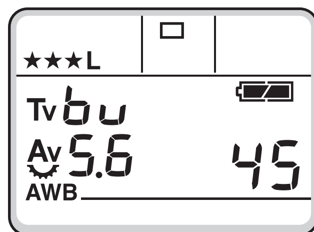
例）シャッター速度が1／125秒で、絞りがF5.6の状態をAE-Lボタンで記憶した場合、Tvダイヤルでシャッター速度を1／30秒に変えると絞り値は自動的にF11へ変わります。

B（バルブ）モードを利用する

花火や夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。

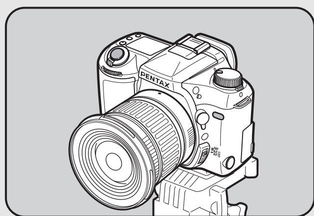
1 モードダイヤルを回して B の位置に合わせる







- バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチCS-205」を使用してください。
- リモコン撮影を利用すると、リモコンのシャッターを押している間、バルブ撮影を行うことができます。
- カスタムファンクションで撮影したときにノイズリダクション処理するかどうかを設定することができます。



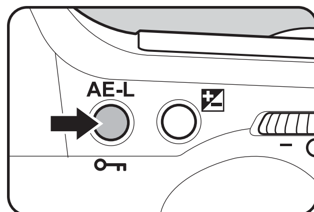
AE-L（AEロック）について

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。写したいものが小さく、適正な露出を得るのが難しいときや逆光撮影のときなどにお使いください。

1 AEロックボタンを押す

その時点の露出（明るさ）をカメラが記憶します。

もう一度押すと解除できます。





- AEロック中は、ファインダー内に✱が表示されます。
- AEロックボタンから指を離しても、測光タイマーの2倍の時間は露出が記憶されています。AEロックボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。
- AE ロックボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないようにすることもできます。〔117ページ〕
- **B**（バルブ）モードに設定しているときは、AEロックは利用できません。
- 露出モードを **P**（ハイパープログラム）モードに設定しているときは、AEロックをしている間もハイパープログラムを行うことができます。
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックをした時点での明るさで画像は撮影されます。
- 露出モードを **M**（ハイパーマニュアル）モードに設定しているときは、AEロックボタンを押した時点の露出値を記憶します。その状態でシャッター速度あるいは絞り値を変更すると、露出値を保持したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。

フォーカスについて

オートフォーカス
ピントを自動で調整します。オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしてピントが合うと、その位置に固定する**AF.S**（シングルモード）と被写体に合わせて常にピントを調整する**AF.C**（コンティニアスモード）があります。〔68、69ページ〕

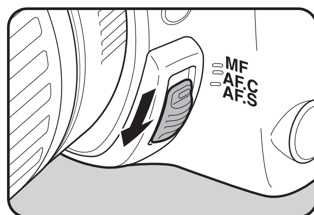
マニュアルフォーカス
ピント調整をマニュアルで行います。〔70ページ〕

測距点の切り替え
被写体のピント調整位置を自動に設定したり、ファインダー内で指定した位置に設定したり、ファインダー中央に固定することができます。
〔72ページ〕

ピント調整には、以下の3つの方法が用意されています。

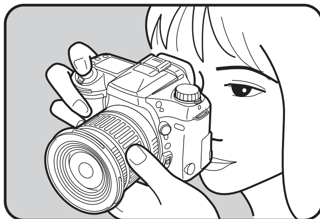
オートフォーカスのAF.S（シングルモード）を利用する

1 フォーカスモードレバーを AF.S の位置に合わせる



2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。
（点滅すると、ピントは合っていません。）



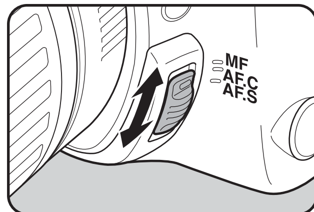




- ⬣ が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。
- **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、ピントが合わない限りシャッターをきることができません。被写体に近づき過ぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手な物〔76ページ〕の場合は、マニュアルでピントを調整してください。〔70ページ〕

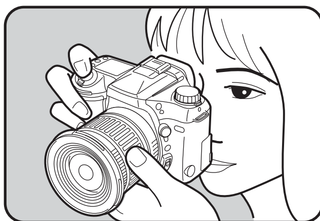
オートフォーカスのAF.C（コンティニアスモード）を利用する

1 フォーカスモードレバーを AF.C の位置に合わせる



2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。（点滅すると、ピントは合っていません。）







- **AF.C**（コンティニアスモード）では、カメラが被写体を動体と判断すると自動的に動体予測に切り替わります。
- **AF.C**（コンティニアスモード）では、ピントが合っていない状態でも、シャッターボタンを押しきるとシャッターがきれます。

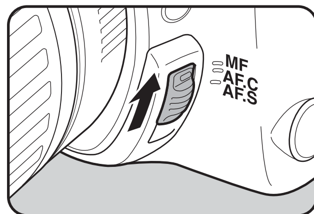
マニュアルでピントを調整する

マニュアルでピントを調整するには、ファインダー内の合焦マークを利用する方法と、ファインダー内のマット面を利用する方法があります。

合焦マークを利用する

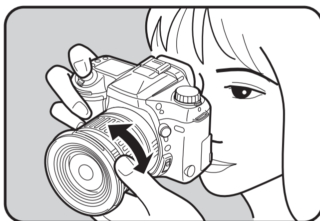
ファインダーの合焦マーク⬣を利用して、手動でピントを調整します。

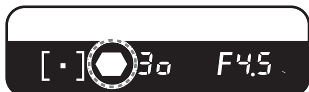
1 フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせる



2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しにし、レンズの距離リングを回す

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



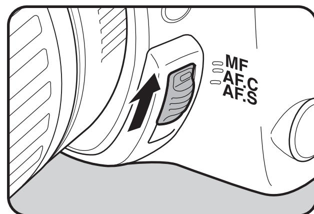




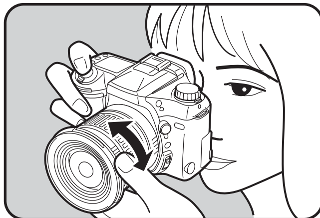
- 被写体がオートフォーカスの苦手な物〔76 ページ〕に該当し、合焦マークが点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 電子音が鳴らないように設定することができます。〔117ページ〕

マット面を利用する場合

1 フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせる



2 ファインダーを覗きながらファインダー内の像が最もはっきり見えるように、レンズの距離リングを回す



測距点を選択する

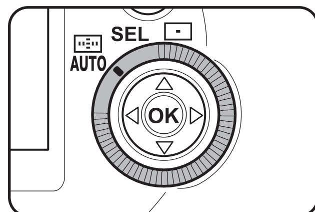
AFフレーム内には11の測距エリアがあります。撮影する状況に応じて、使用する測距点を選択することができます。

測距点をオートにする

被写体が中央にいなくても、自動的にファインダー内の測距点の最適な位置でピントを合わせます。

1 測距点切り替えダイヤルを AUTO に合わせる

AFフレームの内側が自動でピントの合う範囲です。



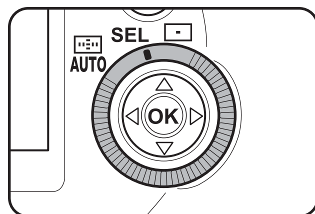


- シャッターボタンを半押しにすると、ピントが合った位置の測距点が赤くスーパーインポーズ表示されます。カスタムファンクションでスーパーインポーズ表示しないように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。
- DA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず測距点は中央に固定されます。

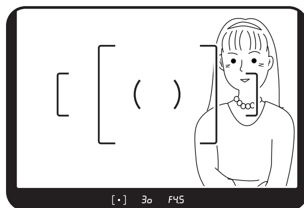
任意の測距点を設定する

AFフレーム内には11の測距エリアがあります。オートに設定していて、思った位置にピントが合わないときは、測距点を任意に設定することができます。

1 測距点切り替えダイヤルを SEL に合わせる



2 ファインダーを覗きながら、被写体の位置を確認する



3 十字キーを押して、ピントを合わせたい位置に測距点を設定する



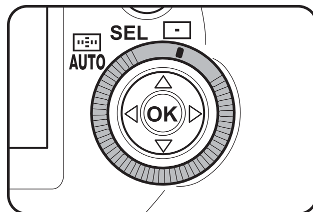
十字キーを押した方向に、ファインダー内の測距点表示が赤く点灯（スーパーインポーズ）し、どの位置に設定したかを確認することができます。逆光などの条件で、スーパーインポーズが見づらい場合は、ファインダー内の測距点表示で確認してください。



- 測距点の設定を解除し、カメラによる自動設定に戻すときは、測距点切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。
- DA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず測距点は中央に固定されます。

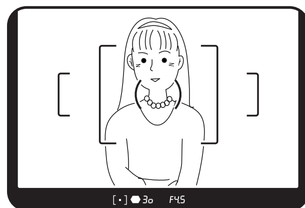
測距点を中央に固定する

1 測距点切り替えダイヤルを [・] に合わせる



2 シャッターを半押しにする

測距点が点灯する中央部にだけピントが合います。





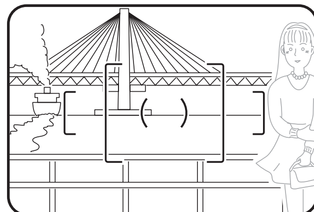
測距点の設定を解除し、カメラによる自動設定に戻すときは、測距点切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。

フォーカスロックについて

オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものが測距点の範囲外にあるときは、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合、いったん測距点の範囲内で被写体にピントを合わせて固定し（フォーカスロック）、画像の構図を変えて撮影できます。フォーカスロック撮影は、フォーカスモードを **AF.S**（シングルモード）に設定しているときに行うことができます。

1 撮りたい画像の構図をファインダーで確認する

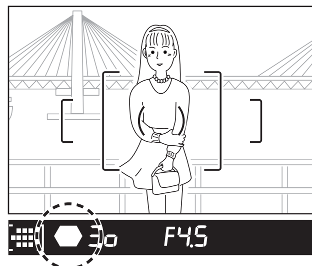
ピントを合わせたいものがどの測距点の内側にも入っていないときにフォーカスロックします。



（例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

2 ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しする

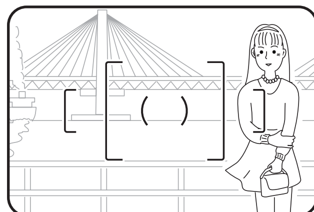
ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ● が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。（点滅すると、ピントは合っていません。）



3 フォーカスロックする

シャッターボタンを半押しにしたままにすると、そのままフォーカスロックされます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻る





- 合焦マーク ⬣ が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 電子音が鳴らないように設定することができます。〔117ページ〕

AF補助光について

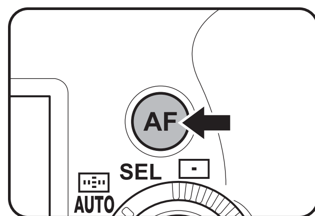
AF.S（シングルモード）でストロボを上げているときは、被写体が暗い場合には、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵ストロボがマルチ発光され、オートフォーカスでのピントが合いやすくなります。

オートフォーカスが苦手なもの

オートフォーカス機構は、万能ではありません。写す物が下記のような場合には、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク ● を利用した手動ピント合わせも同様です。
そんなときは、フォーカスモードレバーを**MF**にして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

a) 測距点の内側が白い壁などの極端にコントラスト（明暗差）の低い物だけの場合。
b) 測距点の内側に光を反射しにくい物がある場合。
c) 非常に速い速度で移動している物。
d) 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい物）。
e) 測距点の内側に繰り返しの縦線や横線が存在する場合。
f) 遠近のものが測距点の内側で同時に存在する場合。
　f)については、合焦マーク ● が出ていても、写したい物にピントが合わないことがありますのでご注意ください。

AFボタンについて

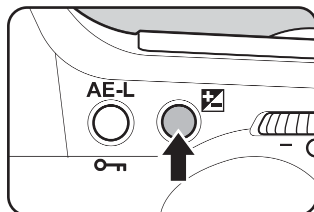


AFボタンは、シャッターボタンの半押しと同様にオートフォーカスを作動させることができます（撮影はシャッターボタンで行います）。
AF.S（シングルモード）の場合、AFボタンを押してピントが合うと、ボタンを押し続けている間フォーカスロックが働きます。
AF.C（コンティニアスモード）の場合は、AFボタンを押している間ピントを合わせ続けます（オートフォーカスが作動し続けます）。

露出を補正する

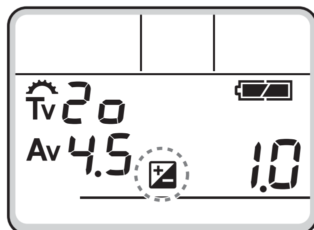
意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。露出補正は、－3～＋3段階（EV）の範囲で、0.5段階（EV）ごとに設定することができます。

1 露出補正ボタンを押しながら Tv ダイヤルで補正値を設定する



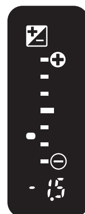
2 ファインダーと表示パネルで補正値を確認する

補正中は が表示されます。



ファインダーのバーグラフの見かた

バーグラフの ● が－側にあれば露出アンダー、＋側は露出オーバーの方向になります。1目盛りが1段階（1EV）に相当します。





- 電源をOFFにしたり、他の露出モードにしても露出補正は解除されません。
- 露出補正ボタンを押しながらグリーンボタンを押すと、露出補正値は0に戻ります。
- カスタムファンクションで、露出補正を0.3段階（EV）ごとに設定できるようにすることもできます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

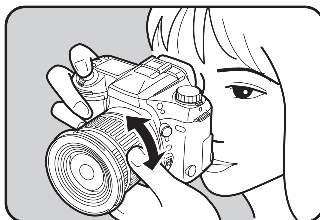
注意

露出モードをグリーンモード、**M**（ハイパーマニュアル露出）モード、**B**（バルブ）モードに設定しているときは、露出補正はできません。

ズームレンズの使い方

ズームレンズを使えば写したい物を大きくしたり、小さくしたり自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 **ズームリングを右に回すと望遠へ、左に回すと広角になります。**





- レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると、写る範囲が広い広角側に、大きくすると、遠いものを大きく写す望遠側になります。
- このカメラでは、パワーズーム、イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームは使用できません。

オートブラケッティング撮影

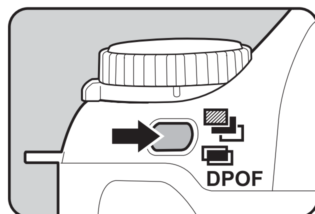
シャッターボタンを押したときに、露出が違う画像を連続して撮影できます。1枚目は補正なしの画像、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）の画像、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の画像を撮影します。
マイナス側、プラス側の露出補正値の幅は、カスタムファンクションの「露出設定ステップ」で、1/2Ev（±0.5、±1.0、±1.5）および1/3Ev（±0.3、±0.7、±1.0）の2通りから選択することができます。

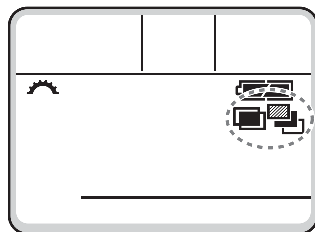

標準露出


アンダー露出

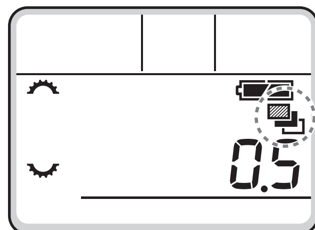

オーバー露出

1 多重露出/オートブラケットボタンを押して、表示パネルに を表示させる

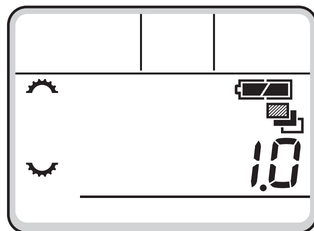




2 多重露出/オートブラケットボタンを押しながら、Tvダイヤルで を選択する



3 多重露出/オートブラケットボタンを押しながら、Avダイヤルで露出補正値の幅を設定する



4 シャッターボタンを押し続ける

連続して1枚目は補正なし、2枚目はマイナス側、3枚目はプラス側にそれぞれ補正して、3枚の画像が撮影されます。



- 「連続撮影」と組み合わせた場合、シャッターボタンを押し続けている間は連続してオートブラケット撮影が行なわれます。
- フォーカスモードレバーが **AF.S**（シングル）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- フォーカスモードレバーが **AF.C**（コンティニアス）に設定されているときは、シャッターが1回きれるごとに、その都度ピント合わせが行なわれます。ただし、この場合、ピントが合っていなくてもシャッターがきれるのでご注意ください。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光タイマーの2倍（初期値約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影することができます。この場合、各コマ毎にピント合わせが行なわれます。測光タイマーの2倍（初期値約20秒）を過ぎると1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 内蔵ストロボあるいは、外付けストロボ（TTL、P-TTL オートの場合のみ）とオートブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続に撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。
- カスタムファンクションでオートブラケットの撮影順序を変更することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

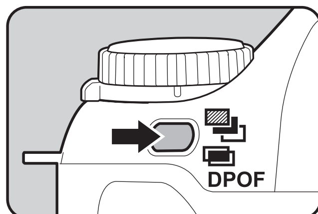
オーバー方向またはアンダー方向のみの画像を撮るには

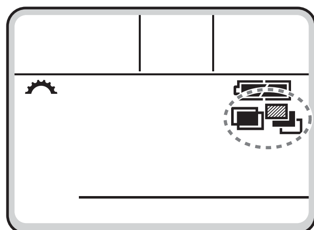
露出補正機能〔77ページ〕と組み合わせることで、オーバー方向、またはアンダー方向のみのオートブラケット撮影を行うことができます。どちらの場合も、露出補正値を中心としたオートブラケット撮影が行なわれます。

多重露出撮影

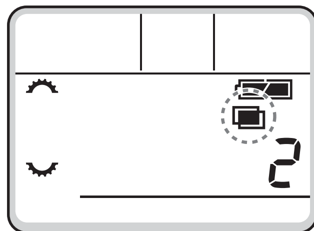
複数の画像を重ね合わせて撮影することができます。例えば、暗い夜景に明るい月の画像を重ね合わせるなどの合成画像を撮ることができます。

1 **多重露出/オートブラケットボタンを押して、表示パネルに を表示させる**



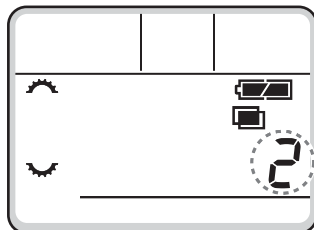


2 **多重露出/オートブラケットボタンを押しながら、Tvダイヤルで を選択する**



3 **多重露出/オートブラケットボタンを押しながら、Avダイヤルで撮影枚数を設定する**

ここでは例として、撮影枚数を2枚に設定します。



4 多重露出 / オートブラケットボタンから指を離してシャッターボタンを押し、1枚目の画像を撮影する

1枚目の画像が撮影され、液晶モニタにクイックビュー表示されます。



5 シャッターボタンを押し込み、重ね合わせる画像を撮影する

合成された画像が液晶モニタに表示されます。





- 撮影が終了すると、表示パネルの▣が消え多重露出モードが解除されます。
- 1 枚目の画像がクイックビュー表示されているときに消去ボタンを押すと、消去画面が表示され、1枚目の画像を消去することができます。
- 3枚以上撮影するときは、手順5を繰り返します。
- 一度に設定できるのは9枚までです。

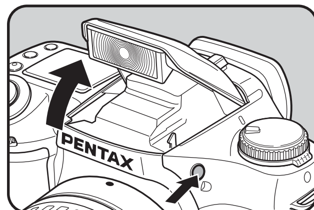
ストロボを使って撮影する

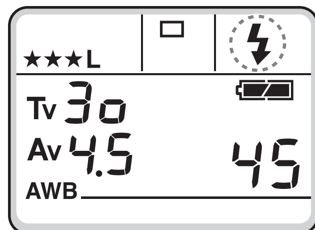
内蔵ストロボを使って撮影する

暗い場所での撮影や逆光など、ストロボの使用が必要な場合、手動で内蔵ストロボを上げてから撮影します。
内蔵ストロボは、ご使用のレンズや撮影条件によってケラレを生じることがありますので、事前にテスト撮影をして、確認されることをお勧めします。138ページの「DA・FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表」もご覧ください。

1 ストロボボタンを押して、ストロボを上げる

ストロボが跳ね上がり、ストロボの充電が開始します。
充電が終わると、表示パネルとファインダー内に ϟ が表示されます。

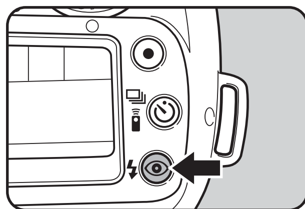






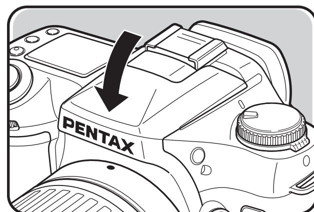
2 ストロボモードボタンを押して、ストロボの発光方式を選ぶ

〔85ページ〕



3 シャッターボタンを押し込んでストロボ撮影をする

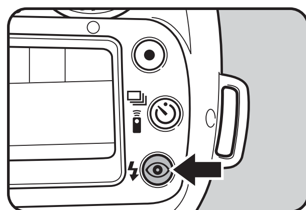
4 図の部分を押し下げ、ストロボを収納する



発光方式を設定する

1 ストロボモードボタンを押して、ストロボの発光方式を選ぶ

ボタンを押すごとに、下記の順番でストロボの発光方式が変わります。



露出モード別のストロボ発光方式について

ストロボの発光方式は露出モードによって異なります。露出モード別のストロボ発光方式については、以下を参照ください（表示は内蔵ストロボを上げた状態です）。

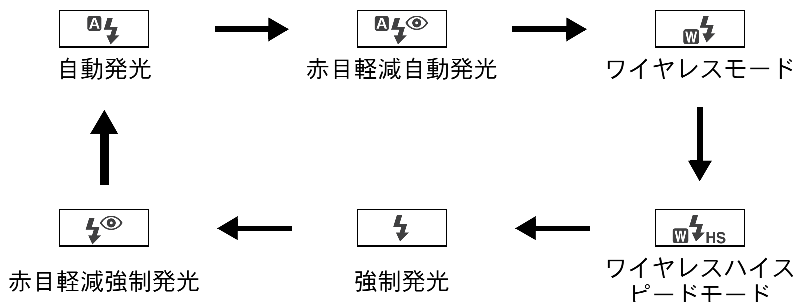
グリーンモード



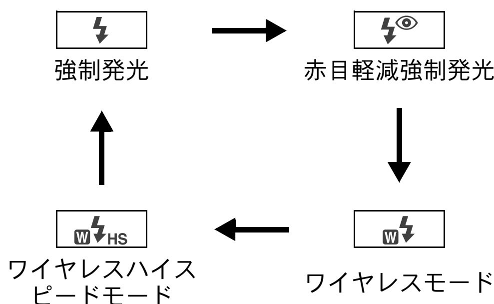


自動発光　　赤目軽減自動発光

P（ハイパープログラム）モード



Tv（シャッター優先）モード／Av（絞り優先）モード M（マニュアル露出モード）／B（バルブ）モード



赤目軽減機能について

このカメラには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。表示パネルに◉が表示されている場合、シャッターがきれる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。



- 内蔵ストロボの赤目軽減機能とAF500FTZやAF360FGZのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。詳しくは94ページをご覧ください。

赤目現象とは

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

ストロボ撮影可能距離

ストロボ撮影できる距離は、使用するレンズによっても異なりますが、被写体との距離約4メートル以内を目安としてご使用ください。（感度が400の場合）



- ストロボで撮影できる最短距離は、開放絞り値の暗いレンズを使用しても、約0.7mより近距離にはなりません。0.7mより近距離で撮影すると露出が正しく制御されません。また、ケラレなどが発生しますのでご注意ください。
- 使用絞りからストロボ撮影の可能距離を計算する方法は、137ページをご覧ください。

ストロボお勧めマークについて

暗い場合や逆光のときは、表示パネルとファインダー内の ϟ が点滅し、ストロボの使用をお勧めします。



- 露出モードが**Tv**（シャッター優先）モード、**M**（ハイパーマニュアル露出）モードに設定されているときは、逆光の場合にのみ、ϟ が点滅します。
- 充電完了と同時に ϟ は点灯になります。
- バルブ撮影では、ϟ は表示されません。

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、内蔵ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影と同じですから、そのままシャッターボタンを押すだけで簡単にできます。

●撮影の方法
1 ストロボボタンを押す。
2 ストロボモードが強制発光になっていることを確認する。
3 ストロボの充電完了を確認する。
4 撮影する。



- 背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。
- 日中シンクロを行なう場合、ストロボモードボタンを押して、表示パネルの A 表示を消してから撮影してください。A 表示が出たままで撮影するとストロボが発光しないことがあります。
（グリーンモードでは、A 表示を消すことはできません）


ストロボなし


ストロボ使用 日中シンクロ

露出モードとストロボ撮影

Tv（シャッター優先）モードでストロボを使う

- 動きのある物を写すときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影をすることができます。
- 1／150秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影をすることができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。

Av（絞り優先）モードでストロボを使う

- ピントの合う範囲［被写界深度］を変えて撮影したいときや、より遠くの物を写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影をすることができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は1／150秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。
- DA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合は、1/150秒固定になります。

低速シンクロについて

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

●Tv（シャッター優先）モードを使う場合

1 露出モードをTv（シャッター優先）モードに設定する。
2 Tvダイヤルで好みのシャッター速度を設定する。
3 ストロボボタンを押して、ストロボを上げます。
4 撮影する。



- シャッター速度を設定したときに絞り値が点滅していると、背景が適正露出になりません。絞り値が点滅しないようにシャッター速度を調整してください。
- シャッター速度を設定する前にストロボを上げてしまうと、背景が適正露出になりません。
- 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される側が動いても、写真はぶれてしまいますので、ご注意ください。
- ハイパープログラムの **Tv**（シャッター優先）モードでも同様な操作で、低速シンクロができます。
- 低速シンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

●M（ハイパーマニュアル露出）モードを使う場合

1 露出モードを**M**（ハイパーマニュアル露出）モードに設定する。
2 適正露出になるように、シャッター速度（1／150秒以下）と絞り値を設定する。
3 ストロボボタンを押して、ストロボを上げる。
4 撮影する。



ハイパーマニュアル露出モードでは、撮影前のどの時点でストロボを上げても構いません。

外付けストロボを使って撮影する

別売りの外付けストロボAF360FGZを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影、TTLオートストロボ撮影、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影などの多彩なストロボ撮影を行うことができます。ご使用の外付けストロボにより使用できる機能は異なりますので、下表を参照の上ご使用ください。

ストロボ／カメラの機能	内蔵ストロボ	AF360FGZ	AF500FTZ AF330FTZ	AF400FTZ AF240FT AF140C
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○	×
ストロボ自動発光ができる	○	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○	○
ハイパープログラム、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる	○	○	○	○
ファインダー内でオートチェックできる	×	×	○	○
P-TTLオートストロボ撮影ができる（連動感度：200～3200）	○*1	○*1	×	×
TTLオートストロボ撮影ができる（連動感度：200～800）	△*2, *6	△*2, *6	△*6	△*6
低速シンクロ撮影ができる	○	○	○	○
AF補助光が使用できる	○	○	○	○
後幕シンクロ撮影ができる＊3	○*4	○	○	○
光量比制御モードで撮影ができる＊3	×	○	○	×
スレーブ機能が働く	×	○	○*5	×
マルチストロボが働く	×	×	○*5	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×	×
ワイヤレスで撮影ができる	×	○	○*5	×

*1 DA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ。
*2 絞りA位置以外で使用した場合。
*3 シャッター速度は、1／60秒以下になります。
*4 AF360FGZ／AF500FTZ／AF330FTZまたは、AF400FTZ／AF240FTのストロボと組み合わせて後幕シンクロが可能です。
*5 AF330FTZは不可。
*6 最小絞り付近では露出アンダー傾向に、開放F値が明るいレンズの開放絞り付近では露出オーバー傾向になる場合があります。

AF360FGZのLCDパネル表示について

AF360FGZの場合、使用レンズの焦点距離による35mm判と*istDとの画角差を自動で換算します。（DA・FA J・FA・Fレンズ使用時）
換算表示は*istDの測光タイマーがonの間のみ行われ、FORMATサイズ表示は消灯となります。（測光タイマーがoffになると、35mm判表示に戻ります）

使用レンズの焦点距離		85mm	77mm	50mm	35mm	28mm	24mm	20mm	18mm
AF360FGZ LCDパネル	測光タイマー off	85mm		70mm	50mm	35mm		28mm	24mm※
	測光タイマー on	58mm		48mm	34mm	24mm		19mm	16mm※

※ワイドアダプター使用

P-TTLオートで使う

AF360FGZと組み合わせた場合、P-TTLオートにすると、撮影直前にストロボをプリ発光させ、16分割で測光するため、より正確な制御が可能です。ワイヤレスでもP-TTLオートが可能です。

1 カメラのホットシューに付いているカバーを取り外し、ストロボを取り付ける。
2 ストロボの電源を入れる。
3 発光モードをP-TTLオートに設定する。
4 ストロボの充電完了を確認し、撮影する。



- P-TTLオートはAF360FGZとの組み合わせでのみ有効です。AF360FGZ以外のストロボでは、TTLオートになります。
- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- 表示パネルに A が表示中であれば、ストロボ自動発光になります。従って、写すものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付ストロボを取り付けた状態で、ストロボボタンは押さないでください。外付けストロボに接触します。同時に使用する場合は、95ページの方法で接続してください。

ハイスピードシンクロモードで使う

AF360FGZを使用することで、1/150秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。ハイスピードシンクロは、ストロボをカメラに取り付けても、ワイヤレスでも使用できます。

●ストロボをカメラに取り付けて撮影する場合

1 カメラのホットシューに付いているカバーを取り外し、ストロボを取り付ける。
2 モードダイヤルを回して、露出モードをグリーンモード、**B**（バルブ）モード以外に設定する。
3 ストロボの電源を入れる。
4 ストロボのシンクロモードをHS（ハイスピードシンクロ）に設定する。
5 ストロボの充電完了を確認し、撮影する。



- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- シャッター速度が1/150秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。ハイパープログラムモードの場合、TvまたはAvダイヤルを回して、シャッター優先か絞り優先で使わないと、シャッター速度を1/150秒より速くできません。）
- 露出モードがグリーンモード、**B**（バルブ）モードではハイスピードシンクロはできません。

●ストロボをワイヤレスで撮影する場合

1 ストロボを発光させたい位置に固定する。
2 ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」に合わせる。
3 ストロボのワイヤレスモードをS（スレーブ）に設定する。
4 ストロボボタンを押して内蔵ストロボを使用できる状態にする。
5 ストロボモードボタンを押して W HS を表示させる。



- 内蔵ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- シャッター速度が1/150秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。

ワイヤレスモードで使う

AF360FGZを使用することで、カメラとストロボをコードで接続しないでストロボ撮影することができます。ハイスピードシンクロの機能は、ワイヤレスでも使用できます。

1 ストロボを発光させたい位置に固定する。
2 ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」に合わせる。
3 ストロボのワイヤレスモードをS（スレーブ）に設定する。
4 ストロボボタンを押して内蔵ストロボを使用できる状態にする。
5 ストロボモードボタンを押して W を表示させる。



- 内蔵ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- 内蔵ストロボの代わりに、AF360FGZをカメラに直接取り付けてもワイヤレスモードが有効になります。
- AF360FGZのワイヤレススレーブモードはSLAVE1に設定してください。

ワイヤレスストロボ制御について（P-TTL撮影）

AF360FGZをワイヤレスで使用するときには、ストロボが発光されるまでに内蔵ストロボとAF360FGZ間で以下のような情報伝達が行なわれています。

1 シャッターボタンを押しきる
2 内蔵ストロボが小光量発光（カメラ側の発光モードを伝達）
3 外付けストロボが小光量発光（被写体の状態を確認）
4 内蔵ストロボが小光量発光（発光量を外付けストロボに伝達）
※HS（ハイスピードシンクロ）が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後内蔵ストロボがもう一度小発光します。
5 外付けストロボが本発光



- カスタムファンクションで内蔵ストロボを外付けストロボへの情報伝達用としてだけ使うか、露出に影響を与える発光もするかを設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。
- AF360FGZのワイヤレススレーブモードはSLAVE1に設定してください。

ワイヤレスストロボ制御のチャンネル設定について

ワイヤレス制御を行う場合、以下の方法でAF360FGZのチャンネル（例：CH1）を合わせる必要があります。
AF360FGZをカメラに取り付け、カメラの電源を入れた後にシャッターボタンを半押しにすると、AF360FGZのチャンネルがカメラ側に設定されます。



ストロボモードで W または W⚡HS を設定したときに、現在のチャンネルが約10秒間表示されます。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能がお使いいただけます。ストロボの種類によってご使用いただけない場合や使用条件がありますので、91ページの一覧表をご覧ください。

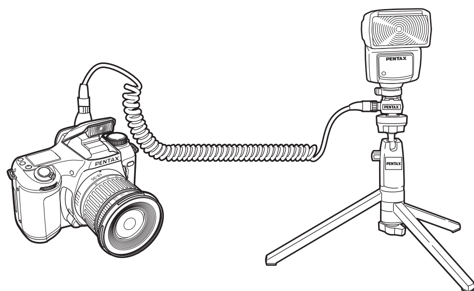
後幕シンクロについて

内蔵ストロボと後幕シンクロ機能を備えた外付けストロボを組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターをきってください。

内蔵ストロボと外付けストロボの同時使用方法

下の〔図1〕のようにカメラのホットシュー部分に別売りのホットシューアダプター FGを、外付けストロボの下に別売りのオフカメラシューアダプター Fを付け、延長コードF5Pで接続します。オフカメラシューアダプター Fの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。

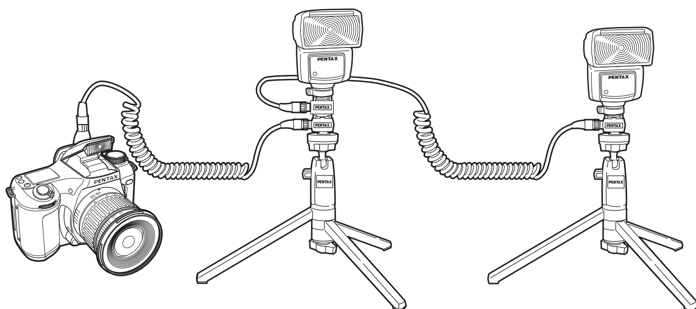
[図1] 内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合



ストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、91ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、AF360FGZ ／AF500FTZ／AF330FTZとAF400FTZ／AF240FTの組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。つなぎ方は次ページの[図2]のように、外付けストロボとホットシューアダプター Fにオフカメラシューアダプター Fを付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプター Fと、延長コードF5Pで接続します。

[図2] 2個以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合





- AF500FTZでは、オフカメラシューアダプター Fを使用しなくても、直接延長コードF5Pをつなぐことができます。
- AF360FGZを複数台、またはAF360FGZと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。それ以外のストロボと組み合わせた場合は、ストロボの制御はTTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボAF330FTZ／AF500FTZとAF360FGZを組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボと組み合わせることで、2つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）をすることができます。

1 95ページの方法で、外付けストロボをカメラから離して接続する。
2 AF360FGZ、AF330FTZ ／ AF500FTZ のシンクロモードを光量比制御モードに設定する。
3 外付けストロボと内蔵ストロボのストロボの充電完了を確認してから撮影する。



- 光量の比率は、外付けストロボどうしの場合、光量比制御に設定しているストロボ2に対して、それ以外のストロボ1、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。
- AF360FGZを 2 台、またはAF360FGZと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。それ以外のストロボと組み合わせた場合は、ストロボの制御はTTLで行われます。
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は 1 ／ 60 秒になります。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

5 再生機能編

拡大して再生する

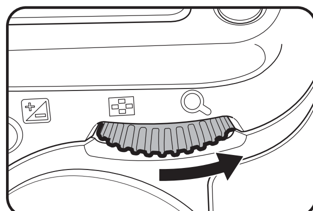
再生する画像を12倍まで拡大表示することができます。

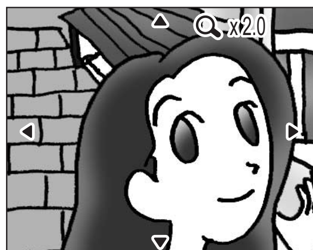
1 再生ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ



2 9画面表示／拡大表示ダイヤルを右に回す

画像が拡大表示（1倍～12倍）表示されます。拡大表示中は、十字キーで拡大位置を移動することができます。9画面表示／拡大表示ダイヤルを左に回すと、画像は小さくなります。





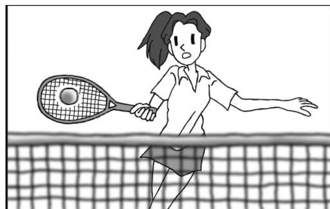


- 撮影できる状態に戻るには、再生ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。
- 拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示は解除されます。

9画像ずつ表示する

撮影した画像を液晶モニタに9枚まで同時に表示することができます。

1 再生ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

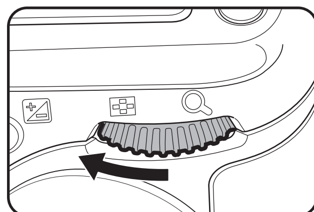


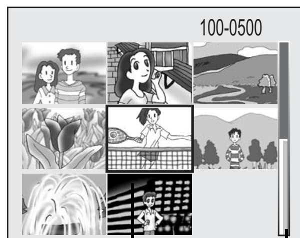
2 9 画面表示／拡大表示ダイヤルを左に回す

画像が小さなコマで一度に9コマまで表示されます。

十字キー（▲▼◀▶）で画像が選べます。

10枚以上の画像が記録されていると、画面右端にスクロールバーが表示されます。最下行の画像を選択しているときに十字キー（▼）を押すと、次の9画像が表示されます。





選択画像

スクロールバー



一番最後の画像を選択しているときに十字キー（▼）を押すと、先頭の9画像が表示されます。

3 9画面表示／拡大表示ダイヤルを右に回すか、OK ボタンを押す

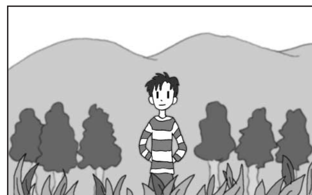
選択した画像が1枚表示されます。

画像を消去する

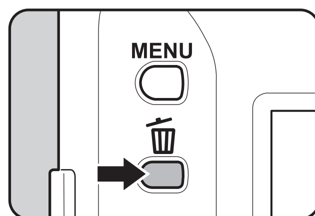
1画像ずつ消去する

画像を1画像ずつ消去します。

1 **再生ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を選ぶ**



2 **消去ボタンを押して、消去画面を表示させる。**



3 **十字キー（▲）で「消去」を選ぶ**



4 **OKボタンを押す**

画像が消去されます。

まとめて消去する

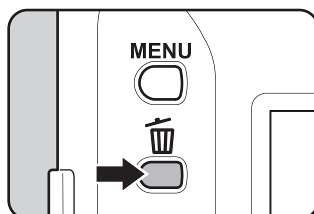
保存されている全画像を消去します。



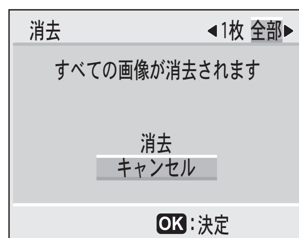
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません

1 再生ボタンを押す

2 消去ボタンを押して、消去画面を表示させる



3 十字キー（◀▶）で「全部」を選ぶ



4 十字キー（▲）で「消去」を選び、OKボタンを押す

全画像が消去されます。

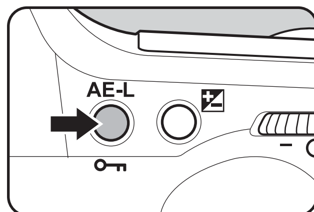
消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

1 再生ボタンを押し、十字キー（◀▶）でプロテクトする画像を選ぶ



2 プロテクトボタンを押して、プロテクト画面を表示させる



3 十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ



4 OKボタンを押す

選択した画像がプロテクト（保護）されます。



- プロテクトを解除するには、手順3で「解除」を選びます。
- プロテクトされた画像には、再生時にが表示されます。

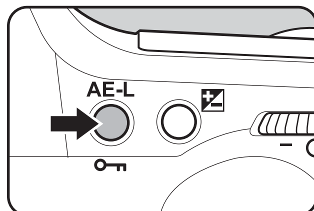


プロテクトされた画像もCFカードをフォーマットすると消去されます。

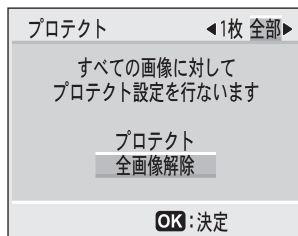
全画像をプロテクトするには

1 再生ボタンを押す

2 プロテクトボタンを押して、プロテクト画面を表示させる



3 十字キー（◀▶）で「全部」を選ぶ



4 十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

画像がプロテクト（保護）されます。



手順3で「解除」を選ぶと、全画像のプロテクト設定が解除されます。



プロテクトされた画像もCFカードをフォーマットすると消去されます。

プリントサービスの設定をする（DPOF）

画像を記録したCFカードをプリント取り扱い店に持っていくと、従来の写真と同様にプリント注文をすることができます。
あらかじめDPOF (Digital Print Order Format)の設定をすることで、プリント枚数の指定や、画像に日付を入れることができます。

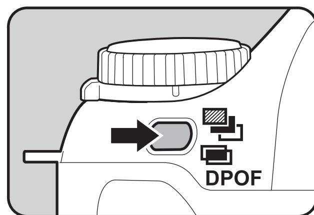
1画像ずつ設定する

各画像ごとに、次の項目の設定をします。
- 枚数:プリントする枚数を設定します。99枚まで設定することができます。
- 日付:プリントする画像に日付を入れるか入れないかを設定します。

1　再生ボタンを押し、十字キー（◀▶）でプリント指定する画像を選ぶ



2　DPOFボタンを押して、DPOF画面を表示させる



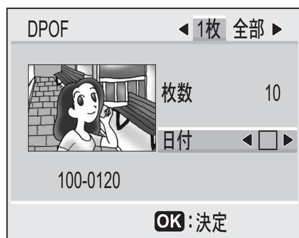
3　十字キー（▼）を押す

カーソルが「枚数」に移動します。



4 十字キー（◀▶）でプリント枚数を指定し、十字キー（▼）を押す

カーソルが「日付」に移動します。



5 十字キー（◀▶）で日付の☑（オン）と□（オフ）を設定する

☑ プリントに日付を入れます。
□プリントに日付を入れません。

6 OKボタンを押す

設定した値でプリントすることができます。



- すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付のオン/オフが表示されます。
- DPOFを解除するには、枚数を「0」に設定して、OKボタンを押します。



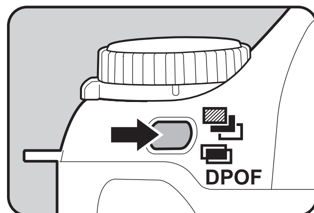
- プリンタやプリント取り扱い店のプリント機器によっては、DPOFの設定で日付をオンにしても、プリントに日付が写し込まれない場合があります。
- RAW画像に対してDPOFの設定はできません。

全画像を設定する

全画像にプリントサービスの設定をします。

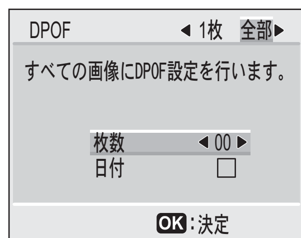
1 再生ボタンを押す

2 DPOFボタンを押して、DPOF画面を表示させる



3 十字キー（◀▶）で「全部」を選び、十字キー（▼）を押す

カーソルが「枚数」に移動します。

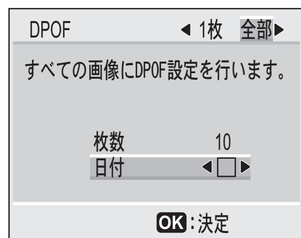


4 十字キー（◀▶）でプリント枚数を設定し、十字キー（▼）を押す

カーソルが「日付」に移動します。



プリント枚数は99枚まで設定することができます。



5 十字キー（◀▶）で日付の☑（オン）と□（オフ）を設定する

☑プリントに日付を入れます。
□プリントに日付を入れません。

6 OKボタンを押す

設定した値でプリントすることができます。



- 全画像設定を行なうと、1画像ずつの設定は解除されます。
- 全画像設定でプリント枚数の指定をすると、すべてのコマに指定した枚数が設定されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいか確認してください。
- 全画像設定でプリント枚数を 00 枚に設定すると、DPOF 設定は解除されます。

6 設定編

設定メニュー一覧

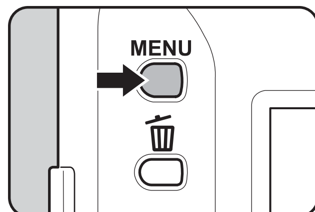
MENUボタンを押すと液晶モニタに、設定メニューが表示されます。設定メニューを使用して、カメラの基本的な機能を設定することができます。

項目	内容	参照ページ
フォーマット	CFカードをフォーマットします	112ページ
カスタムファンクション	使用目的に合わせてカメラの各機能や設定を設定します	113ページ
彩度	画像の彩度を設定します	115ページ
シャープネス	画像のシャープネス（先鋭度）を設定します	115ページ
コントラスト	画像のコントラスト（明暗差）を設定します	116ページ
クイックビュー	クイックビューの表示時間を設定します	116ページ
オートパワーオフ	自動的に電源オフする時間を設定します	117ページ
電子音	電子音の設定をします	117ページ
日時設定	日付/時刻を設定します	118ページ
ワールドタイム	ワールドタイムを設定します	118ページ
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます	120ページ
ビデオ出力	ビデオ出力方式を設定します	121ページ
LCDの明るさ	液晶モニタの明るさを設定します	121ページ
ファイルNo.	画像のファイルNo.の設定方法を切り替えます。	122ページ
スライドショウ	保存された画像を連続して再生します	123ページ
センサークリーニング	CCDをクリーニングするためにミラーをアップした状態に固定します	123ページ
リセット	設定を初期値に戻します	124ページ

設定メニューの操作方法

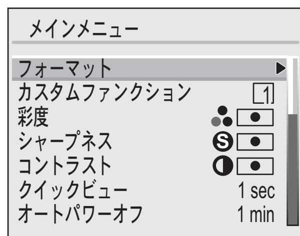
メニュー画面の表示方法

カメラの電源がONの状態でMENUボタンを押すと、液晶モニタにメニュー画面が表示されます。メニュー画面は、前回使用していたメニュー画面が表示されます。



メニュー項目の選択方法

十字キー（▲ ▼）で項目を選び、十字キー（◀ ▶）で設定を切り替えます。サブメニュー画面があるときは、十字キー（▶）でサブメニュー画面に移行します。





メニュー項目の選択は、Tvダイヤルを使用して行うこともできます。また、設定の切り替えは、Avダイヤルを使用して行うこともできます。

メニュー項目の実行方法

メニュー画面での設定が終了したらOKボタンを押します。設定が保存され、撮影または再生できる状態になります。サブメニュー画面で設定を行った場合は、OKボタンを押すとメニュー画面に戻ります。再度OKボタンを押すと設定が保存され、撮影または再生できる状態になります。



OKボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源をオンにしたまま電池を取り出したりするなど誤った操作で電源をオフすると設定は保存されません。

カメラの設定をする

CFカードをフォーマットする

CFカードに保存されているすべてのデータを消去します。

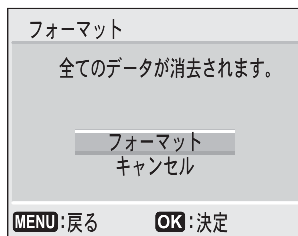


- CFカードのフォーマット中は、絶対にカードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行なうと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

1 メインメニューの「フォーマット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押して、フォーマット画面を表示させる

3 十字キー（▲）で「フォーマット」を選ぶ



4 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影できる状態になります。

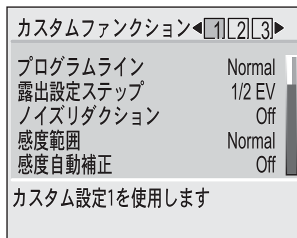
カスタムファンクションを設定する

カメラの各機能や設定をお好みに合わせて設定します。設定内容は3通り別々に保存することができます。設定内容の詳細については、125ページをご覧ください。

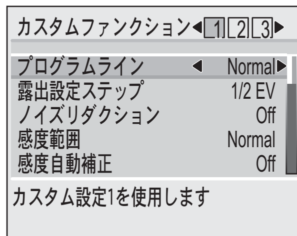
1 メインメニューの「カスタムファンクション」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押して、カスタムファンクション画面を表示させる

3 十字キー（◀▶）で設定内容を保存したいカスタム番号を選ぶ



4 十字キー（▲▼）で設定したい項目を選び、十字キー（◀▶）で設定内容を切り替える



5 OKボタンを2回押す

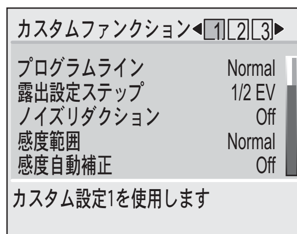
設定した内容が保存され、撮影または再生できる状態になります。

保存した機能を呼び出す

1 **メインメニューの「カスタムファンクション」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押して、カスタムファンクション画面を表示させる**

3 **十字キー（◀▶）で設定内容を呼び出したいカスタム番号を選ぶ**



4 **OKボタンを2回押す**

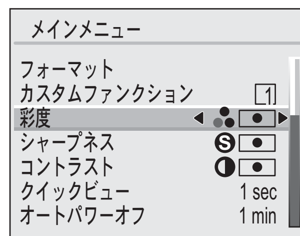
選択したカスタムファンクション番号に保存された内容が呼び出され、撮影または再生できる状態になります。

彩度を設定する

画像の色の鮮やかさを設定します。

1 メインメニューの「彩度」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で□■□（標準）、□□■（強）、■□□（弱）を切り替える



3 OKボタンを押す

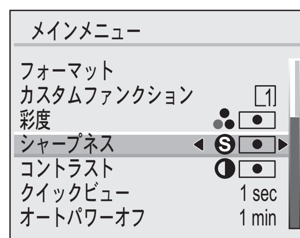
撮影または再生できる状態になります。

シャープネスを設定する

画像の輪郭をシャープまたはソフトにします。

1 メインメニューの「シャープネス」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で□■□（標準）、□□■（ハード）、■□□（ソフト）を切り替える



3 OKボタンを押す

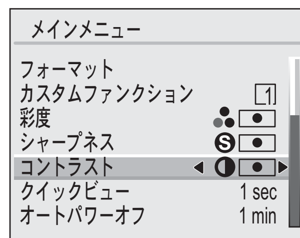
撮影または再生できる状態になります。

コントラストを設定する

画像のコントラスト（明暗差）を設定します

1 メインメニューの「コントラスト」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で（標準）、（強）、（弱）を切り替える



3 OKボタンを押す

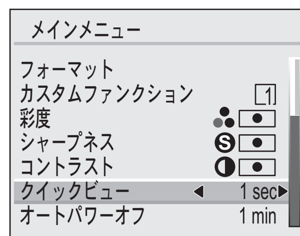
撮影または再生できる状態になります。

クイックビューを設定する

クイックビューの表示時間を1 sec（1秒）、3 sec（3秒）、5 sec（5秒）、OFFから選べます。

1 メインメニューの「クイックビュー」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で表示時間を切り替える



3 OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

オートパワーオフ

一定時間操作しないときに、自動的に電源がオフになるように設定することができます。

1 メインメニューの「オートパワーオフ」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で電源がOFFになる時間を切り替える



30 sec（30秒）、1 min（1分）、3 min（3分）、5 min（5分）、10 min（10分）、15 min（15分）、30 min（30分）、OFFから選択することができます。

3 OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。



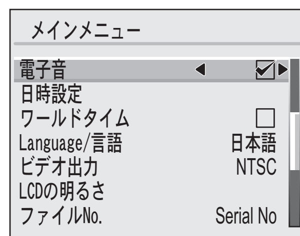
スライドショウで再生しているとき、USB接続しているとき、およびACアダプタ使用時はオートパワーオフは働きません。

電子音をオン/オフする

カメラ操作時の電子音のオン/オフを設定します。

1 メインメニューの「電子音」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で☑（オン）と□（オフ）を切り替える



3 OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

日付の表示スタイル・日付／時刻を変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選べます。

1 メインメニューの「日時設定」を選ぶ

2 十字キー ▶を押して、日時設定画面を表示させる

日時の設定方法は、28ページをご覧ください。

ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」〔27ページ〕で設定した日時は、「ホームタイム」（通常使用する国・地域の日時）として設定されます。「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用する際、液晶モニタに設定した国・地域の日時で表示することができます。

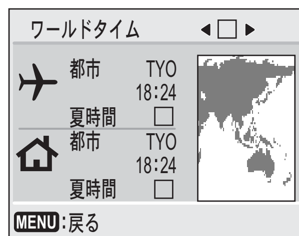
1 メインメニューの「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押して、ワールドタイム設定画面を表示させる

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）と□（オフ）を切り替える

☑ ワールドタイムで選択した国・地域の時刻表示になります。

□ ホームタイムで選択した国・地域の時刻表示になります。



4 十字キー（▼）を押す

ワールドタイムを設定します。

はじめに東京がワールドタイムの対象地域として選択されます。このとき、世界地図上の東京の位置が点滅表示し、✈の「都市」には東京の記号名（TYO）と現地時刻が表示されます

5 十字キー（◀▶）でワールドタイムの都市を選び、十字キー（▼）を押す



指定できる都市および都市の記号名については、128ページをご覧ください。

6 十字キー（◀▶）で「夏時間」のオン（☑）／オフ（□）を切り替え、十字キー（▼）を押す

ホームタイムを設定します。

はじめに東京（TYO）がホームタイムの対象地域として選択されます。

十字キー ◀▶ でホームタイムの都市や、「夏時間」のオン／オフを変更することができます。

7 OKボタンを2回押す

設定した都市の日時で撮影または再生できる状態になります。

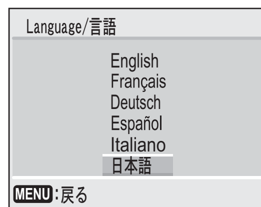
表示言語を設定する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。

1 **メインメニューの「Language/言語」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押して、Language/ 言語設定画面を表示させる**

3 **十字キー（▲▼）で言語を選ぶ**



4 **OKボタンを押す**

設定した言語でメニュー画面が表示されます。

5 **OKボタンを押す**

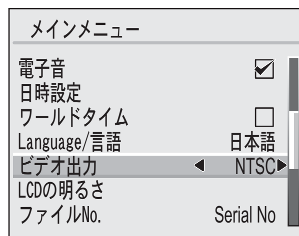
撮影または再生できる状態になります。

ビデオ出力方式を選択する

テレビをモニタにして撮影や再生をするときの出力形式をNTSC方式とPAL方式から選ぶことができます。

1 **メインメニューの「ビデオ出力」を選ぶ**

2 **十字キー（◀▶）でモニタにするテレビの出力方式に合わせて、「NTSC」「PAL」を切り替える**



3 **OKボタンを押す**

撮影または再生できる状態になります。



日本国内では、NTSC方式です。

液晶モニタの明るさを設定する

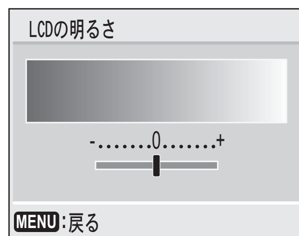
液晶モニタの明るさを設定することができます。

1 **メインメニューの「LCDの明るさ」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押して、LCDの明るさを表示させる**

3 **十字キー（◀▶）で液晶モニタを見ながら、明るさを調整する**

十字キー（◀）を押すと暗くなり、十字キー（▶）を押すと明るくなります。



4 OKボタンを2回押す

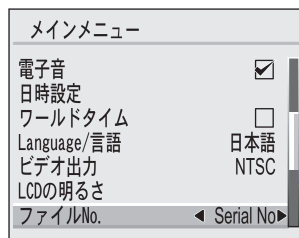
撮影または再生できる状態になります。

ファイルNo.の付け方を選択する

新しいCFカードを入れたときの画像のファイルNo.について設定します。

1 メインメニューの「ファイルNo.」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で「Reset」と「Serial No」を切り替える



Reset: 新しい CF カードを入れるたびに画像のファイルNo.が一番小さなNo.に戻ります。記録済みの CF カードを入れたときは、続きのNo.になります。

Serial No: 最後に撮影した画像のファイルNo.が記憶され、新しい CF カードを入れても続きのファイルNo.になります。

3 OKボタンを押す

設定した内容で、ファイルNo.が画像に付けられます。

スライドショウを設定する

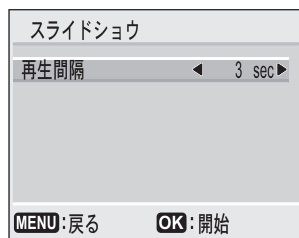
CFカードに保存された全画像を連続して再生します。連続再生を開始するには、液晶モニタに表示されるメニュー画面を使用します。

1 **再生ボタンを押し、十字キー（◀▶）でスライドショウを開始したい画像を選ぶ**

2 **メインメニューの「スライドショウ」を選び、十字キー（▶）を押してスライドショウ設定画面を表示させる**

3 **十字キー（◀▶）で再生間隔を切り替える**

3 sec（3秒）、5 sec（5秒）、10 sec（10秒）、15 sec（15秒）、20 sec（20秒）、30 sec（30秒）から選択することができます。



4 **OKボタンを押す**

設定した間隔で再生が開始します。



- 連続再生中にシャッターボタンや十字キー、MENUボタンなどのボタンを押すと、スライドショウが停止します。
- スライドショウは一巡すると停止します。

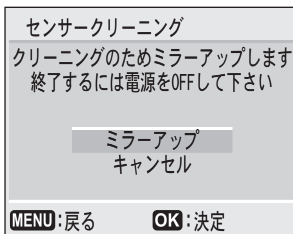
センサークリーニング

CCDをクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。CCDのクリーニング方法については、147ページをご覧ください。

1 **メインメニューの「センサークリーニング」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押して、センサークリーニング画面を表示させる**

3 **十字キー（▲）で「ミラーアップ」を選ぶ**



4 **OKボタンを押す**

ミラーがアップした状態に固定されます。CCDのクリーニング後は、カメラの電源をOFFにしてください。

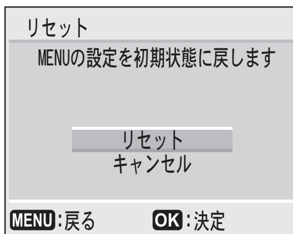
設定をリセットする

日時設定、Language/言語、ビデオ出力、日付設定、ワールドタイム以外の設定内容をリセットします。

1 **メインメニューの「リセット」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押して、リセット画面を表示させる**

3 **十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ**



4 **OKボタンを押す**

撮影または再生できる状態になります。

カスタムファンクション一覧

カスタムファンクションで設定することができる機能の一覧です。

項目	設定項目	説明
プログラムライン	Normal* Hi Speed Depth MTF	プログラムラインをノーマルプログラムにします。 プログラムラインを高速優先プログラムにします。 プログラムラインを深度優先プログラムにします。 プログラムラインをMTF優先プログラムにします。
露出設定ステップ	1/2 EV* 1/3 EV	露出設定ステップを1/2EVにします。 露出設定ステップを1/3EVにします。
ノイズリダクション	On* Off	低速シャッター時にノイズリダクション処理をします。 ノイズリダクション処理をしません。
感度範囲	Normal* Wide	設定可能な感度範囲を200～1600までにします。 設定可能な感度範囲を200～3200までにします。
感度自動補正	Off* On	露出設定範囲を超えた場合も感度の自動補正を行いません。 露出設定範囲を超えた場合は感度の自動補正を行います。
Sの記録サイズ	1536×1024* 1152×768 960×640	記録サイズS選択時の記録サイズを1536 × 1024にします。 記録サイズS選択時の記録サイズを1152 × 768にします。 記録サイズS選択時の記録サイズを960 × 640にします。
ハイパープログラム	On* Off	ハイパープログラム機能が使用可能です。 ハイパープログラム機能は使用できません。
M時のグリーンボタン	P* Tv Av	グリーンボタンを押すとプログラムライン上の適正露出値が得られます。 グリーンボタンを押すとAv値は固定のままTv値をシフトし適正露出にします。 グリーンボタンを押すとTv値は固定のままAv値をシフトし適正露出にします。
測距と露出の関連付け	Off* On	測距点の位置に応じて分割測光の露出値を自動調整しません。 測距点の位置に応じて分割測光の露出値を自動調整します。
シャッター半押し時のAF	On* Off	シャッター半押しでAF作動をします。 シャッター半押しではAF作動をしません。
オートブラケット撮影順	0 - +* - 0 + + 0 -	オートブラケットの撮影順序を標準/マイナス/プラスにします。 オートブラケットの撮影順序をマイナス/標準/プラスにします。 オートブラケットの撮影順序をプラス/標準/マイナスにします。
CF未挿入時のレリーズ	On* Off	CFカード未挿入時のレリーズを許可します。 CFカード未挿入時のレリーズを禁止します。
絞りA以外でのレリーズ	Off* On	レンズの絞り位置A以外の時はレリーズを禁止します。 レンズの絞り位置A以外の時でもレリーズを許可します。
充電中のレリーズ	Off* On	内蔵ストロボが充電中はレリーズを禁止します。 内蔵ストロボが充電中でもレリーズを許可します。

* 設定項目の初期値

項目	設定項目	説明
ワイヤレス時の発光	On* Off	ワイヤレスモード設定時の内蔵ストロボをマスター発光させます。 ワイヤレスモード設定時の内蔵ストロボをコントローラー発光させます。
OKボタンによる発光	Off* Test Modeling	対応外付けストロボ使用時OKボタンで発光をさせません。 対応外付けストロボ使用時OKボタンでテスト発光をさせます。 対応外付けストロボ使用時OKボタンでモデリング発光をさせます。
測光作動時間	3sec 5sec 10sec* 15sec 30sec	測光タイマーの作動時間を3秒にします。 測光タイマーの作動時間を5秒にします。 測光タイマーの作動時間を10秒にします。 測光タイマーの作動時間を15秒にします。 測光タイマーの作動時間を30秒にします。
セルフタイマー作動時間	12sec* 2sec	セルフタイマーの作動時間を12秒にします。 セルフタイマーの作動時間を2秒にします。
リモコンレリーズ時間	3sec* 0sec	リモコンレリーズの3秒後にシャッターがきれます。 リモコンレリーズ直後にシャッターがきれます。
スーパーインポーズ	On* Off	スーパーインポーズの表示をします。 スーパーインポーズの表示をしません。
ビデオ出力時のLCD表示	Off* On	ビデオ出力時は液晶モニタをOFFします。 ビデオ出力時に液晶モニタもONします。
色空間	sRGB* AdobeRGB	sRGB色空間に設定します。 Adobe RGB色空間に設定します。
カスタム設定のリセット	リセット キャンセル	選択されているカスタムの設定を初期状態に戻します。

* 設定項目の初期値

「絞りA以外でのレリーズ」設定時の注意

カスタムファクションで「絞りA以外でのレリーズ」を「On」にすると、FA・F・Aレンズの絞りを**A**位置以外にしたり、**A**位置のないレンズを取り付けても、シャッターがきれるようになります。ただし、下表のような制約を受けますので、ご使用の際はご注意ください。

使用レンズ	露出モード	制約内容
FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	絞り優先自動露出	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままで絞られません。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。
FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	絞り優先自動露出	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	絞り優先自動露出	

使用レンズ	露出モード	制約内容
FA・Fソフト85mm　FAソフト28mm（レンズ単体）	絞り優先自動露出	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。
すべてのレンズ	マニュアル露出	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されますが、露出計が働きませんので、露出の正誤は確認できません。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。

ワールドタイム都市名一覧

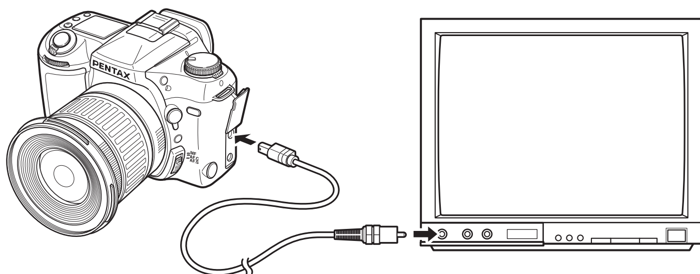
ワールドタイムで指定できる都市、および都市の記号名です。

都市名	記号名	都市名	記号名
東京	TYO	ヨハネスブルグ	JNB
グアム	GUM	イスタンブール	IST
シドニー	SYD	カイロ	CAI
ヌーメア	NOU	エルサレム	JRS
ウェリントン	WLG	モスクワ	MOW
オークランド	AKL	ジッダ	JED
パゴパゴ	PPG	テヘラン	THR
ホノルル	HNL	ドバイ	DXB
アンカレジ	ANC	カラチ	KHI
バンクーバー	YVR	カブール	KBL
サンフランシスコ	SFO	マーレ	MLE
ロサンゼルス	LAX	デリー	DEL
カルガリー	YYC	コロンボ	CMB
デンバー	DEN	カトマンズ	KTM
メキシコシティ	MEX	ダッカ	DAC
シカゴ	CHI	ヤンゴン	RGN
マイアミ	MIA	バンコク	BKK
トロント	YTO	クアラルンプール	KUL
ニューヨーク	NYC	ビエンチャン	VTE
サンティアゴ	SCL	シンガポール	SIN
カラカス	CCS	プノンペン	PNH
ハリファックス	YHZ	ホーチミン	SGN
ブエノスアイレス	BUE	ジャカルタ	JKT
サンパウロ	SAO	香港	HKG
リオデジャネイロ	RIO	パース	PER
マドリッド	MAD	北京	BJS
ロンドン	LON	上海	SHA
パリ	PAR	マニラ	MNL
ミラノ	MIL	台北	TPE
ローマ	ROM	ソウル	SEL
ベルリン	BER	アデレード	ADL

7 接続編

テレビと接続する

ビデオケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えた機器をモニタにして再生することができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずOFFにしてください。



1 カメラのPC/VIDEO接続端子にビデオケーブルを接続する

2 ビデオケーブルのもう一方の端子を、テレビの映像入力端子に接続する

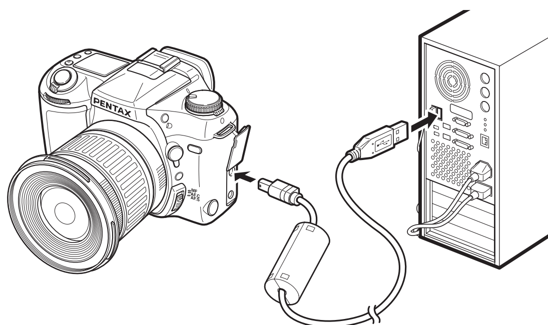
3 テレビとカメラの電源を入れる



- 長時間使用するときは、AC アダプタ（別売）のご使用をおすすめします。テレビ等接続する機器の使用説明書もご覧ください。
- カスタムファンクションで､テレビに接続しているときの液晶モニタのオン/オフを設定することができます。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

パソコンと接続する

カメラとパソコンをUSBケーブル（I-USB2）で接続すると、画像をパソコンへ転送し、PENTAX PHOTO BrowserやPENTAX PHOTO Laboratoryを使って、画像を閲覧したりRAWデータを展開することができます。
PENTAX PHOTO BrowserやPENTAX PHOTO Laboratory のパソコンへのインストール方法や、画像の閲覧やRAWデータの展開方法については、別冊の「PENTAX PHOTO Browser・PENTAX PHOTO Laboratory使用説明書」をご覧ください。
以下の接続方法は、カメラをWindowsパソコンへ接続する場合の接続方法です。



1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源をOFFにして、カメラのPC/VIDEO接続端子とパソコンのUSB端子をUSBケーブルで接続する

カメラにCFカードが入っていることを確認してください。

3 カメラの電源を入れる

カメラが「マイコンピュータ」の「リムーバブルディスク」として認識されます。



USB接続におけるデータ転送の時間は、パソコンの性能やCFカードの性能によって異なります。

8 付録

撮影機能についてもっと知りたい方へ

絞りとシャッター速度の効果について

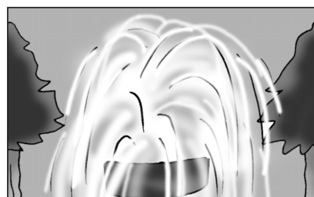
写したいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。ただし、被写体の適正露出を決めるときのシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことで、画像の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がCCDにあたる時間を長くしたり、短くしてCCDにあたる光の量を調整しています。

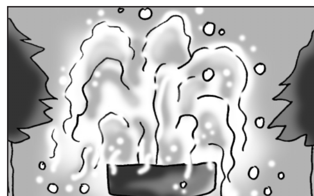
●シャッター速度を遅くする

シャッターの開いている時間が長くなるため、被写体が動いていれば、ブレとして画像に記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮ることで、動感のある画像になります。



●シャッター速度を速くする

動きのあるものでも動きを止めて写すことができます。
被写体が動いてなくても、シャッターをきるときにカメラが動いてしまう手ぶれを起きにくくすることができます。



絞りの効果

絞りは、光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてCCDにあたる光の量を調整します。

●絞りを開いて光束を広くする

ピントを合わせたものに対して、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景のぼけを大きくし、人物だけが浮き上がる効果があります。



●絞りを絞って光束を狭くする

ピントの合う範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景までピントを合わせることができます。



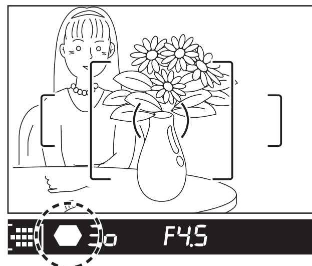


- 被写体のある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントがあう範囲があります。このピントが合う範囲を被写界深度といいます。
- 被写界深度（ピントの合う範囲）は、絞りを絞り込むほど深く（広い範囲にピントが合う）なります。
- その他に、広角レンズほど、また被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。ズームレンズには、機構上被写界深度の目盛りは付いていません。
- *istDでの被写界深度は、レンズによる違いはありますが、35ミリカメラの場合に比べて、目安としては1絞り分浅く（ピントの合う範囲が狭く）なります。
  また、被写界深度目盛りの付いているレンズでは、1絞り分開放側（数字の小さい側）で読み取ってください。

被写界深度の確認方法

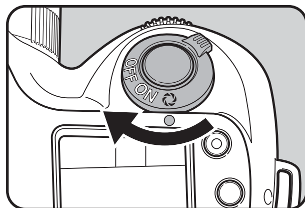
写したいもののある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合う範囲があります。このピントが合う範囲を被写界深度といいます。被写界深度確認機能を利用すると、撮影するときにピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダー内で確認することができます。

1 写したいものにピントを合わせる



2 ファインダーを覗きながら、電源レバーを◎に合わせる

レバーを押している間、ファインダー内で被写界深度を確認することができます。





- 電源レバーを ◎ 位置に合わせている間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれなくなります。
- 被写界深度はすべての露出モードで確認することができます。
- ファインダーで確認したピント範囲と実際の画像でのピントの範囲は必ずしも一致しません。

使用絞りからの撮影距離算出方法（内蔵ストロボ撮影）

遠距離側の目安　ガイドナンバー÷使用絞り
近距離側の目安　遠距離側目安÷5［注］

ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。
注：割り算で使用した数値の「5」は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。
なお、ガイドナンバーは使用する感度［ISO］により下の表のようになります。

ISO200→15.6	ISO800→31	ISO3200→62
ISO400→22	ISO1600→44	

ここで感度（ISO）200時、絞りF4で使うときの例をあげます。
　ガイドナンバー（15.6）÷F4＝約3.9m
　3.9÷5≒0.8m
従って、約0.8mから3.9mの範囲でストロボが使えます。

撮影距離からの使用絞り算出方法（内蔵ストロボ撮影）

ガイドナンバー÷撮影距離＝使用絞り

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方［2.8］にします。

DA・FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表

[○は使用可、×のレンズではケラレが発生します]
いずれもフードなしでの評価です。

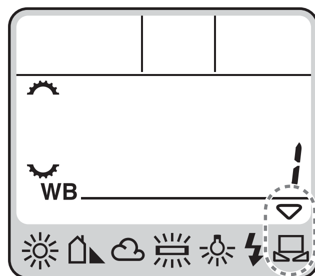
レンズ名	適　合
Fフィッシュアイ／ズーム 17～28mm F3.5～4.5	△ 焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DAズーム16～45mmF4ED AL	△ 焦点距離が28mm未満の時および、焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下の時は、ケラレが発生することがあります。
FA Jズーム18～35mm F4～5.6AL	△ 焦点距離18mmで撮影距離が1m以内では、ケラレが発生することがあります。
FAズーム20～35mm F4AL	○
FAズーム24～90mm F3.5～4.5AL (IF)	○
FAズーム28～70mm F4AL	○
FA★ズーム28～70mm F2.8AL	△ 焦点距離が28～35mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FA Jズーム28～80mm F3.5～5.6	○
FAズーム28～80mm F3.5～5.6	○
FAズーム28～90mm F3.5～5.6	○
FAズーム28～105mm F4～5.6	○
FAズーム28～105mm F4～5.6 (IF)	○
FAズーム28～105mm F3.2～4.5AL (IF)	○
FAズーム28～200mm F3.8～5.6AL (IF)	○
FAズーム35～80mm F4～5.6	○
FAズーム70～200mm F4～5.6	○
FA Jズーム75～300mm F4.5～5.8AL	○
FA★ズーム80～200mm F2.8ED (IF)	○
FAズーム80～320mm F4.5～5.6	○
FAズーム80～200mm F4.7～5.6	○
FAズーム100～300mm F4.7～5.8	○
FA★ズーム250～600mm F5.6ED (IF)	×
FA20mm F2.8	○
FA★24mm F2AL (IF)	○
FA28mm F2.8AL	○
FA31mm F1.8AL Limited	○
FA35mm F2AL	○
FA43mm F1.9 Limited	○
FA50mm F1.4	○

レンズ名	適　合
FA50mm F1.7	○
FA77mm F1.8 Limited	○
FA★85mm F1.4 (IF)	○
FA135mm F2.8 (IF)	○
FA★200mm F2.8ED (IF)	○
FA★300mm F2.8ED (IF)	×
FA★300mm F4.5ED (IF)	○
FA★400mm F5.6ED (IF)	○
FA★600mm F4ED (IF)	×
FAマクロ50mm F2.8	○
FAマクロ100mm F2.8	○
FAマクロ100mm F3.5	○
FA★マクロ200mm F4ED (IF)	○
FAソフト28mm F2.8	○
FAソフト85mm F2.8	○

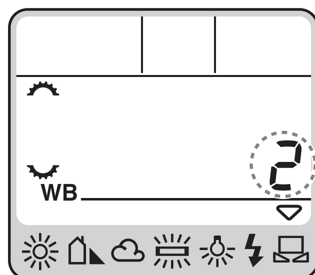
マニュアルでホワイトバランスを設定する

撮影する照明の状況に合わせて任意にホワイトバランスを設定します。あらかじめカメラに用意されたホワイトバランス〔53ページ〕では調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影をすることができます。マニュアルで設定したホワイトバランスは、3通り記憶させることができます。

1 モードダイヤルを WB の位置に合わせ、Avダイヤルを回して を選択する



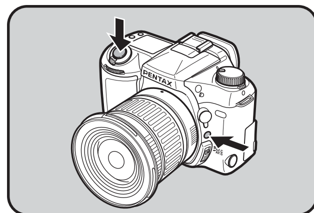
2 Tv ダイヤルでマニュアルホワイトバランスを記憶させる登録番号（1~3）を設定する



3 モードダイヤルを使用する露出モードに合わせ、ホワイトバランスを設定する照明下で、白またはグレーの紙等をファインダーいっぱいに入れる

4 マニュアルホワイトバランスボタンを押しながら、シャッターボタンを押す

設定が正しく行われると、液晶モニタにOKと表示されます。
設定が正しく行われない場合は、液晶モニタにNGと表示されます。

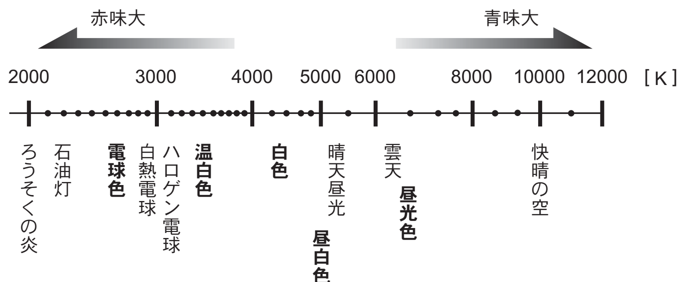




- ホワイトバランスを登録するためにシャッターボタンを押しても、画像は記録されません。
- 登録したホワイトバランスは、ホワイトバランスを に合わせたときのみ有効になります。

色温度について

光の色は、温度が高くなるにつれて青味を帯びた光色に、温度が低くなるにつれて赤味を帯びた光色に変化します。このような光の色の変化を絶対温度（K：ケルビン）で表したものを色温度といいます。このカメラでは、さまざまな光の下で自然な色で撮影できるようホワイトバランスを設定することができるようになっています。



各種レンズを組み合わせたときの機能

各種レンズの使用について

このカメラで使用できるレンズは、DAおよびFA Jレンズまたは絞りリングにA位置のあるFA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズあるいは、FA・F・Aレンズで絞りをA位置から外した場合は、シャッターがきれないためご使用いただけません。

機能　レンズ［マウント名］	DA・FA J・FAレンズ［KAF、KAF2］注3	Fレンズ［KAF］注3	Aレンズ［KA］
オートフォーカス			
（レンズ単体使用）	○	○	×
（AFアダプター 1.7× 使用）注1	−	−	○
マニュアルフォーカス			
（フォーカスインジケーター表示の利用）注2	○	○	○
（マット面の利用）	○	○	○
11点測距	○	○	×
パワーズーム	×	×	×
絞り優先自動露出	○	○	○
シャッター優先自動露出	○	○	○
マニュアル露出	○	○	○
P-TTLオートストロボ 注4	○	○	×
TTLオートストロボ	○	○	○
分割測光（16分割）	○	○	○

○：絞りがA位置であれば、その他は制限なくご使用になれます。
×：ご使用になれません。

注1：レンズの開放F値がF2.8、およびそれより明るいレンズのみ。A位置でのみ使用可。
注2：レンズの開放F値がF5.6、およびそれより明るいレンズのみ使用可。
注3：F・FAソフト85mmF2.8、およびFAソフト28mmF2.8では、カスタムファンクションでレンズ絞りA位置以外でのレリーズ許可を設定した上で手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。
注4：内蔵ストロボおよびAF360FGZ使用時。

レンズ名称とマウント名称について

FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）とDA・FA J ・Fレンズのマウントはすべて KAFマウントです。FAズームレンズのうち、パワーズームが可能なレンズはKAF2マウント、パワーズームのできないレンズはKAFマウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。なお、このカメラにはパワーズーム機構はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて

このカメラで使用できるレンズは、DA・FA Jレンズまたは絞りA（オート）のポジションのあるレンズです。カスタムファンクションでレンズ絞り以外でのレリーズ許可を設定しない限り、絞りリングをAポジション以外にしたり、Aポジションのないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けると、カメラは作動しなくなります。カスタムファンクションの設定については、113ページをご覧ください。

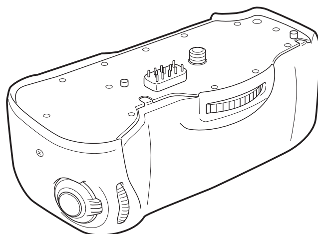
絞りA（オート）以外での使用には機能制限がありますので、126ページの「絞りA以外でのレリーズ」設定時の注意 もご覧ください。

別売りアクセサリー

本機には、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお問い合わせください。

バッテリーグリップD-BG1

操作性を重視し、縦位置撮影のためのシャッターボタン、Tvダイヤル、AvダイヤルやAEロックボタンを配備したバッテリーグリップ。



撮影可能枚数

電池	（使用温度）	一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
CR-V3	(25°C)	約800枚	約750枚	約650枚	約450分
	(0°C)	約550枚	約500枚	約450枚	約350分
単3リチウム	(25°C)	約750枚	約650枚	約600枚	約350分
	(0°C)	約650枚	約600枚	約500枚	約300分
ニッケル水素	(25°C)	約400枚	約350枚	約300枚	約250分
	(0°C)	約350枚	約300枚	約250枚	約200分
単3アルカリ	(25°C)	約100枚	約90枚	約70枚	約100分
	(0°C)	不適	不適	不適	約40分

ACアダプタK-AC10J

コンセントからカメラへ電源を供給します。

ケーブルスイッチ

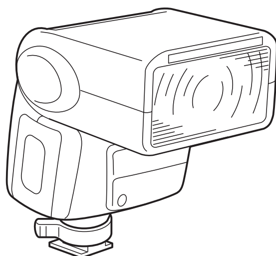
ケーブルスイッチCS-205
レリーズコードです。コードの長さは0.5mです。

リモートコントロールF

カメラ前面5m以内からのリモコン撮影に使用します。

ストロボ関連

オートストロボAF360FGZ
ガイドナンバーが最大36（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。



オフカメラシュークリップCL－10
AF360FGZなどをカメラから離して使用するときのセッティング用クリップ。

ホットシューアダプター FG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コード。

ファインダー関連

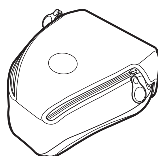
マグニファイヤー FB
ファインダー中央部を拡大してみるアクセサリー。

レフコンバーター A
ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍に切り替えることができます。

視度調整レンズアダプター M
視度を調整するためのアクセサリーです。ファインダーの接眼部に取り付けて使用します。
視度調整レンズアダプター Mは、－5～＋3m^{-1}（毎メートル）までの8種類ございますので、ご自分の視力に合った視度調整レンズアダプターをお使いください。

カメラケース

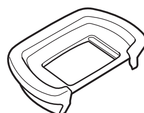
ソフトケースO-CC10



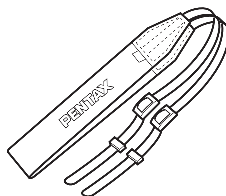
その他

• 以下のアクセサリーは、カメラの同梱品と同じものです。

アイカップFL



カメラストラップO-ST10



CCDのクリーニングについて

CCDに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CCDのクリーニングが必要になります。CCDは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を請け賜っております。

1 カメラの電源をOFFにして、レンズを取り外す。

2 カメラの電源をONにする

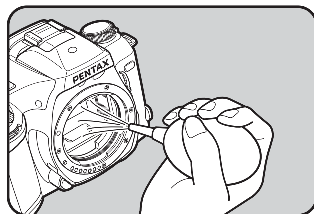
3 設定メニューの「センサークリーニング」を「ミラーアップ」に設定する

4 OKボタンを押す

ミラーがアップした状態に固定されます。

5 CCDをクリーニングする

CCDに付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CCDがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCCDを布で拭かないでください。



6 カメラの電源をOFFにし、ミラーが復元したことを確認後、レンズを取り付ける

注意

- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- 露出モードを **B**（バルブ）モードに設定しているときは、CCD のクリーニングは行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CCDに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- クリーニングをするときは、ACアダプタの使用をお勧めします。
- 電池容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません」と液晶モニタに表示されます。
- AC アダプタを使用しない場合は、容量が十分に残っている電池を使用してください。クリーニングの途中で電池容量が少なくなると警告音が鳴りますので、すみやかにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCCDセンサー部を破損する恐れがあります。

メモリカードについての注意

CFカード使用上の注意

- カードカバーを開けるときは、必ず電源を切った状態で行ってください。
- カメラ使用直後にCFカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- アクセスランプの点灯中および⌛の表示中（CF カードへのデータ記録中や、画像の再生中）、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードカバーを開けたり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- CF カードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- 未使用または他のカメラで使用したカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「CFカードをフォーマットする」〔112ページ〕をご覧ください。
- CF カードのフォーマット中には絶対にカードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- CF カードへの書き込み時間は、撮影条件、カード性能によって異なります。
- CF カードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  - 使用者がCFカードの取り扱いを誤ったとき
  - CFカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  - 長期間カードを使用しなかったとき
  - CF カードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、ACアダプタやバッテリーを抜いたとき
- CFカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や、保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。

マイクロドライブ使用上の注意

- マイクロドライブは小型軽量のハードディスク・ドライブです。回転系記録媒体ですので、振動や衝撃に強くありません。マイクロドライブを使用するときは、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分注意してください。
- マイクロドライブを長時間使用すると熱くなることがあります。取り扱いには十分注意してください。
- マイクロドライブを強い磁気の近くに置かないでください。
- マイクロドライブへの書き込み時間は、撮影条件、マイクロドライブの性能により異なります。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
空き容量がありません	CFカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいCFカードをセットするか、不要な画像を消去してください。〔32、100ページ〕 画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります。〔49、50ページ〕
画像がありません	CFカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにCFカードがセットされていません。〔32ページ〕
電池容量がなくなりました	電池残量がありません。新しい電池と交換してください。〔21ページ〕
カードが異常です	CFカードの異常で、撮影/再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もあります。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないCFカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたCFカードがセットされています。〔32ページ〕
このカードは利用できません	カメラで使用できないカードが入っています。カメラで使用可能なカードを入れてください。
フォルダが作成できません	最大のフォルダNo.およびファイルNo.が使用されているため、画像を保存できません。新しいCFカードをセットするか、CFカードをフォーマットしてください。〔112ページ〕
設定を正しく保存できませんでした	CFカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、DPOFの設定がこれ以上できません。
画像を保存できませんでした	CFカードの異常で撮影した画像が保存できませんでした。
電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません。	電池残量が不十分です。新しい電池と交換するか、別売のACアダプタをご利用ください。
電池容量が少なくなりました。クリーニングを終了してください。	ミラーアップ中に電池容量が少なくなりました。CCDのクリーニングを終了してください。〔147ページ〕

困ったときは

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因	処置.
シャッターが切れない。 表示パネルに表示がでない。	レンズの絞りが **A** 位置以外になっている。	絞りを **A** 位置にしてください。〔58ページ〕
	電源がOFFになっている。	電源をONにしてください。〔26ページ〕
	バッテリー警告 ⊏⊐ が表示されている。	電池を交換してください。〔21ページ〕
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。〔21ページ〕
	モードダイヤルが ⇚ **WB ISO** のいずれかの位置に合っている。	モードダイヤルを ⇚ **WB ISO** 以外の位置に合わせてください。〔49、52、53ページ〕
	内蔵ストロボが充電中である。	充電されるまで待ってください。〔84ページ〕
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物（被写体）がAFフレームの範囲内に入っていない。	写したい物をAFフレームの内側に入れて撮影してください。〔17ページ〕
	写したい物に近づきすぎている。	写したい物から離れてください。
	フォーカスモードレバーが **MF** または **AF.C** になっている。	フォーカスモードレバーを **AF.S** にしてください。〔68ページ〕
	オートフォーカスの苦手な物	マット部分でのピント合わせをご利用ください。〔71ページ〕
AE ロックが働かない。	グリーンモード、**M**（ハイパーマニュアル露出）モード、**B**（バルブ）モードでは、AEロックができない。	グリーンモード、**M**（ハイパーマニュアル露出）モード以外にしてください。
内蔵ストロボが上がっているのにストロボが光らない。	Ⓐ が表示されているときは、写すものが明るいとストロボは発光しません。	〔84ページ〕
パワーズームが動かない。	このカメラはパワーズームに対応しておりません。	マニュアルズームをご使用ください。〔79ページ〕

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、電池を入れ直してから電源をONにし、シャッターボタンを押し込んだまま電源をOFFにするとミラーが下がります。これらを行ないカメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

主な仕様

型　式	P-TTL ストロボ内蔵、マルチモード TTL 自動露出オートフォーカス一眼レフデジタルカメラ
有効画素数	610万画素
撮像素子	総画素数631万画素、原色フィルタ/インターラインインターレーススキャンCCD
記録画素数	L（3008 × 2008ピクセル）、M（2400 × 1600ピクセル）、S（1536 × 1024、1152 × 768、960 × 640ピクセル）
感度	ISO200 相当、ISO400 相当、ISO800 相当、ISO1600 相当、ISO3200相当
記録方式	RAW、TIFF（非圧縮）、JPEG（Exif2.2）、DCF準拠、DPOF対応
画質	RAW、TIFF、S.ファイン、ファイン、エコノミー
記録媒体	コンパクトフラッシュ（CF）Type I/Type II、マイクロドライブ
撮影枚数	

サイズ / 容量	RAW	TIFF		
	3008 × 2008	3008 × 2008(L)	2400 × 1600(M)	1536 × 1024(S)
1GB	約70枚	約55枚	約87枚	約209枚
MicroDrive1GB	約73枚	約58枚	約92枚	約220枚
512MB	約34枚	約27枚	約43枚	約104枚
MicroDrive 340MB	約23枚	約19枚	約30枚	約73枚
256MB	約16枚	約14枚	約21枚	約52枚
128MB	約7枚	約6枚	約10枚	約26枚
64MB	約3枚	約3枚	約5枚	約13枚
32MB	約1枚	約1枚	約2枚	約6枚

サイズ/画質 / 容量	3008 × 2008(L)			2400 × 1600(M)			1536 × 1024(S)		
	S.ファイン ★★★	ファイン ★★	エコノミー ★	S.ファイン ★★★	ファイン ★★	エコノミー ★	S.ファイン ★★★	ファイン ★★	エコノミー ★
1GB	約243枚	約473枚	約908枚	約382枚	約716枚	約1350枚	約908枚	約1636枚	約2832枚
MicroDrive1GB	約255枚	約495枚	約956枚	約400枚	約754枚	約1420枚	約956枚	約1721枚	約2980枚
512MB	約119枚	約232枚	約452枚	約185枚	約354枚	約676枚	約452枚	約812枚	約1412枚
MicroDrive 340MB	約81枚	約159枚	約313枚	約126枚	約245枚	約470枚	約313枚	約565枚	約984枚
256MB	約57枚	約111枚	約222枚	約87枚	約172枚	約335枚	約222枚	約401枚	約701枚
128MB	約25枚	約50枚	約106枚	約38枚	約80枚	約163枚	約106枚	約196枚	約346枚
64MB	約10枚	約19枚	約47枚	約13枚	約35枚	約76枚	約47枚	約93枚	約169枚
32MB	約4枚	約6枚	約19枚	約5枚	約12枚	約34枚	約19枚	約42枚	約81枚

圧縮比：S.ファイン(★★★)＝1/3、ファイン(★★)＝1/6、エコノミー (★)＝1/12

液晶モニタ	1.8型11.8万画素低温ポリシリコンLCD（バックライト付）、視野率100％
露出モード	グリーンモード、P（ハイパープログラム）モード、Tv（シャッター優先）モード、Av（絞り優先）モード、M（ハイパーマニュアル露出）モード、B（バルブ）モード
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター＝1／4000秒～30秒［無段階］、マニュアルシャッター＝1／4000秒～30秒［1/2 EVステップまたは1/3EVステップの選択可］、バルブ、電磁レリーズ、電源OFFでシャッターロック
マウント	ペンタックスバヨネットKAFマウント［AFカプラー、レンズ情報接点付Kマウント］
使用レンズ	KAF2［パワーズーム不可］、KAFマウントレンズ、KAマウントレンズ
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式（SAFOX Ⅷ）、オートフォーカス作動輝度範囲Ev 0～19［ISO200相当］［F1.4レンズ付き］、フォーカスロック可能、フォーカスモード＝AF.S（シングル）/AF.C（コンティニュアス）［動体予測可］／MF、測距点切り替え可能
ファインダー	ペンタプリズムファインダー、ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、視野率95％、倍率0.95倍［1.4/50mm・∞］、視度＝－2.5～+1.5m^{-1}［毎メートル］
ファインダー内表示	フォーカス表示●合焦＝点灯／非合焦＝点滅、ストロボ情報 ϟ 充電完了＝点灯／ストロボお勧めまたは不適合レンズ警告＝点滅、シャッター速度表示、絞り値表示、バーグラフ＝露出補正値／マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、Avダイヤル有効表示、Tvダイヤル有効表示、測距点表示、✱＝AEロック
LCDパネル表示	ϟ 点灯＝内蔵ストロボ充電完了、点滅＝ストロボおすすめまたは不適合レンズ警告、Aϟ ＝自動発光、Aϟ◎ ＝赤目軽減自動発光、Wϟ ＝ワイヤレスモード、WϟHS ＝ワイヤレスハイスピードモード、ϟ ＝強制発光、□＝1コマ撮影、⧉＝連続撮影、Ⓢ＝セルフタイマー、▯＝リモコン撮影、▭＝電池消耗警告、⧉＝オートブラケット（露出設定ステップは、1/2Evまたは1/3Evから選択可）、▬＝多重露出、⧖＝ビジー表示、シャッター速度、絞り値、記録サイズ、画質、Tvダイヤル有効表示、Avダイヤル有効表示、感度、ホワイトバランス、撮影可能枚数、多重露出枚数、ブラケット枚数、露出補正値
被写界深度確認機能	電子式［全露出モードで使用可能］
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒［ミラーアップ機能あり］、電子音の有無設定可能、作動後解除可能
ミラー	クイックリターンミラー、ミラーアップ機能（2秒セルフ時可能）
オートブラケット	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能［露出設定ステップは、1/2Evまたは1/3Evから選択可］

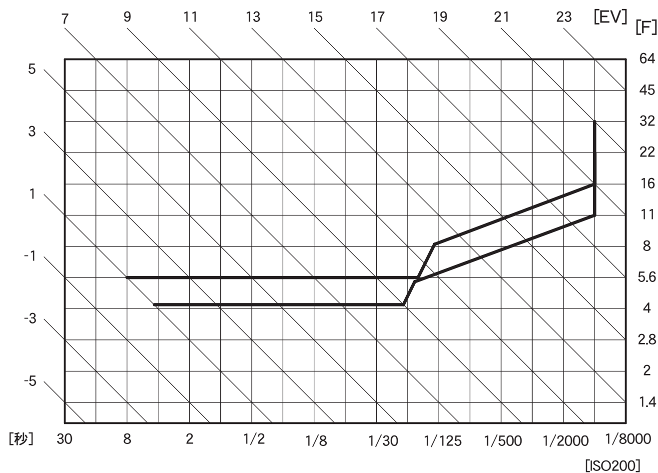
露出計・測光範囲	TTL開放分割測光（16分割）、測光範囲50mm F1.4 ISO200 EV1～21.5、中央重点・スポット測光可能
露出補正	±3段階［EV］（0.5段階［EV］ごと設定可能）
AEロック	ボタン式（タイマー式20秒間）シャッターボタン半押しで継続
内蔵ストロボ	直列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー15.6［ISO200／m］、20mmレンズの画角をカバー、同調速度1／150秒以下、日中シンクロ低速シンクロ光量比制御可能、ISO連動範囲＝P-TTL: 200～3200／TTL: 200～800
外付けストロボ同調	ホットシュー［X接点専用ストロボ接点付き］専用ストロボ連動ISO連動範囲＝P-TTL: 200～3200／TTL: 200～800、自動発光可能、赤目軽減機能可能、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ
カスタムファンクション	23項目設定可能.
時計機能	ワールドタイム設定、世界62都市に対応（28タイムゾーン）
電源	CR-V3を2本、または単3リチウム電池、単3ニッケル水素電池、単3アルカリ電池のいずれか4本
電池消耗警告	バッテリーマーク点灯［点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯］
入出力ポート	USB/ビデオ端子（PC通信方式USB1.1）、外部電源端子
ビデオ出力方式	NTSC/PAL
大きさ・質量［重さ］	129mm［幅］× 94.5mm［高］× 60mm［厚］550g［ボディーのみ電池別］
付属品	ホットシューカバーFK、アイカップFL、MEファインダーキャップ、ボディーマウントカバー、USBケーブルI-USB2、ビデオケーブルI-VC2、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW10、ストラップO-ST10、リチウム電池CR-V3（2本）、リチウム電池CR2016、使用説明書（本書）、PENTAX PHOTO Browser・PENTAX PHOTO Laboratory使用説明書、保証書

リモートコントロールF（別売）仕様

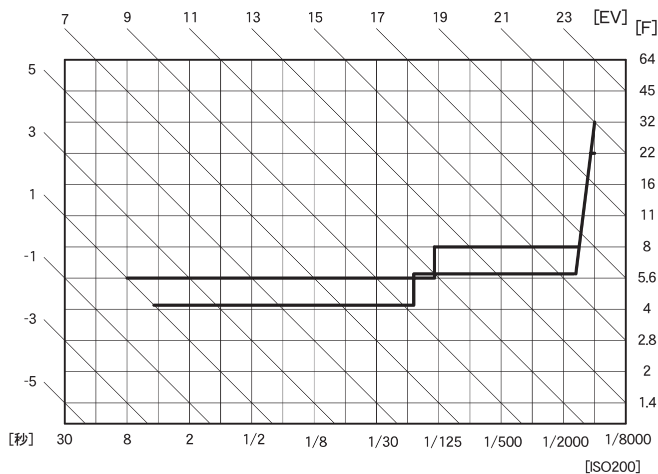
リモコン	赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押して約3秒後撮影、作動距離＝カメラ前面約5m以内
電源	リチウム電池［CR1620］1個
大きさ	22mm［幅］× 53mm［長］× 6.5mm［厚］
質量	7g［電池含む］

プログラム線図

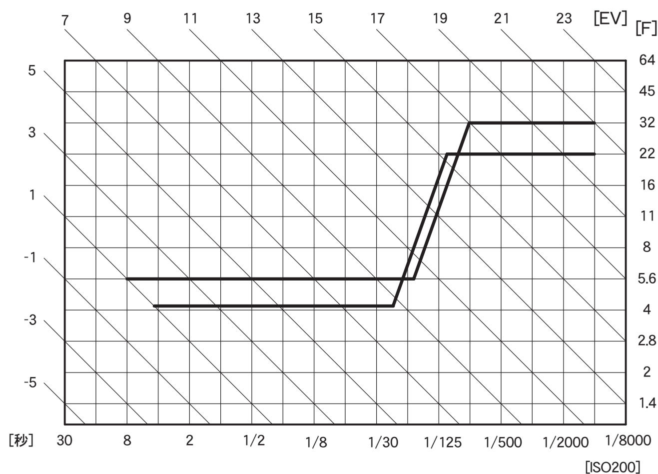
ノーマルプログラム（FA J 18-35mm F4-5.6）



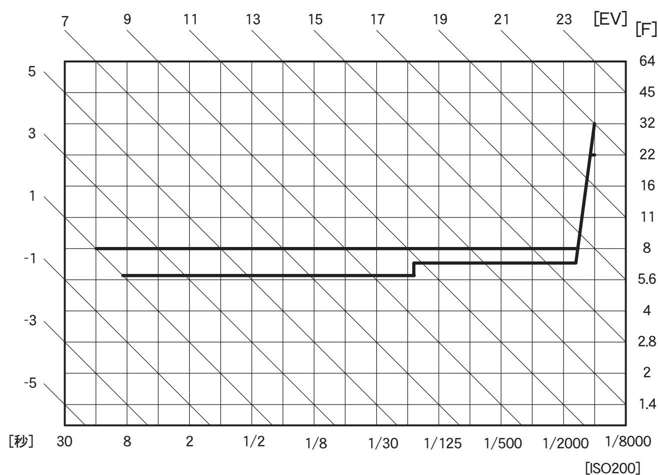
高速優先プログラム（FA J 18-35mm F4-5.6）



深度優先プログラム（FA J 18-35mm F4-5.6）



MTF 優先プログラム（FA J 18-35mm F4-5.6）



用語解説

AdobeRGB

米アドビシステム社が商業印刷原稿作成用に推奨している色空間。sRGBよりも広い色再現域をもち、印刷での色再現域をほぼカバーできるため、パソコン上での画像編集段階において、印刷でしか再現できない色域情報を失うことがありません。なお、対応しないソフトで開くと色が薄く見えてしまいます。

CCD（charge coupled devices）

レンズを通して入ってきた光を電気信号に変換する撮像素子。

DCF (design rule for camera file system)

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF (digital print order format)

画像を記録したカードに、プリントするコマや枚数などの情報を書き込むためのルール。DPOF対応のプリント取り扱い店に持っていくと、簡単にプリントすることができます。

JPEG (joint photographic experts group)

画像の圧縮方式で、画質を★★★（S.ファイン）/★★（ファイン）/★（エコノミー）に設定すると、画像はJPEG形式で記録されます。JPEG形式で記録した画像は、パソコンで閲覧したり、電子メールに添付するのに適しています。

NTSC/PAL

ビデオ出力方式のことで、主に日本、北米、韓国ではNTSCが用いられ、主にヨーロッパ諸国や中国ではPALが用いられています。

RAWデータ

CCDからの生出力を記録した画像データ。パソコンに転送し、付属のソフトウェアを使用することで、JPEGやTIFFなど設定の異なる画像データを作成することができます。

sRGB (standard RGB)

IEC(International Electrotechnical Commission、国際電気標準会議)が定める色空間の国際規格。一般的なパソコン用モニタの標準値として定義された色空間で、Exifの標準色空間としても指定されています。

TIFF (tagged image file format)

画像データを非圧縮形式で保存するためのフォーマット。このフォーマットの画像データはファイルサイズが大きく電子メールへの添付にはあまり向いていませんが、パソコンでの加工に適しています。

色温度

被写体を照らしている光源の色を数値で表したもの。絶対温度で表され、単位はケルビン（K）を使用します。色温度が高くなるにつれて光の色は青味を帯び、色温度が低くなるにつれ光の色は赤味を帯びていきます。

色空間

色を組織化するシステム。パソコンやテレビのディスプレイはRGB（赤、緑、青）の3色の掛け合わせで色を表現し、パンフレットなどカラー印刷物はCMYK（シアン、マゼンタ、黄、黒）の4色の掛け合わせで色を表現しています。このように何らかの方法で特定の色を作り出すための方法を色空間といいます。

画質

画像の圧縮率。圧縮率が低くなるにつれて画像はきめ細かく、圧縮率が高くなるにつれて画像は粗くなります。

記録サイズ

画像の大きさを点（ピクセル）の数で表したもの。画像を構成する点（ピクセル）の数が多くなるほど、画像の大きさは大きくなります。

ヒストグラム

画像の最も暗い部分から最も明るい部分までの階調の分布をグラフ化したもの。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。画像の露光状態を知りたいときに便利です。

アフターサービスについて

1 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお申し出ください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかりと梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2 保証期間中［ご購入後1 年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社のお客様窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社のお客様窓口にお問い合わせください。

6 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口でお持ちの保証書と交換に発行いたします。[保証期間中のみ有効]

7 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（一部の離島を除く）どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供するサービスです。
TEL 0120-737-919（フリーダイヤル）TEL 03-3975-4314（携帯・PHS用）
（受付時間：土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く9：00～17：00）
インターネット受付
URL：http://www.pentax.co.jp/japan/p_menu/service/

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.co.jp/**

お客様相談センター（弊社製品に関するお問い合わせ）

〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間午前 9：00 ～午後 6：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

0570-001313
（市内通話料でご利用いただけます。）
携帯電話、PHS の方は、下記の電話番号をご利用ください。
☎03-3960-3200（代） **☎03-3960-0887** デジタルカメラ専用

［ショールーム・写真展・修理受付］

ペンタックスフォーラム **☎03-3348-2941（代）**
〒 163-0401 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 1 階（私書箱 240 号）
営業時間午前 10：30 ～午後 6：30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

［修理受付］

ペンタックス札幌営業所お客様窓口 **☎011-612-3231（代）**
〒 060-0010 札幌市中央区北 10 条西 18-36 ペンタックス札幌ビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス仙台営業所お客様窓口 **☎022-371-6663（代）**
〒 981-3133 仙台市泉区泉中央 1-7-1 千代田生命泉中央駅ビル 5 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス名古屋営業所お客様窓口 **☎052-962-5331（代）**
〒 461-0001 名古屋市東区泉 1-19-8 ペンタックスビル 3 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス大阪営業所お客様窓口 **☎06-6271-7996（代）**
〒 542-0081 大阪市中央区南船場 1-17-9 パールビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス広島営業所お客様窓口 **☎082-234-5681（代）**
〒 730-0851 広島市中区榎町 2-15 榎町ビュロー 1 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス福岡営業所お客様窓口 **☎092-281-6868（代）**
〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 パールビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

［宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ］

ペンタックスサービス（株）東日本修理センター **☎03-3975-4341（代）**
〒 175-0082 東京都板橋区高島平 6-6-2 ペンタックス（株）流通センター内
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター **☎06-6271-7996（代）**
〒 542-0081 大阪市中央区南船場 1-17-9 パールビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）



ペンタックス株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

ペンタックス販売株式会社
〒 100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1

☆この説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57293 02-200312
Printed in Philippines